

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比  前月比 

- ・アルゼンチン、米国等で上方修正されたものの、ロシア、ウクライナ、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

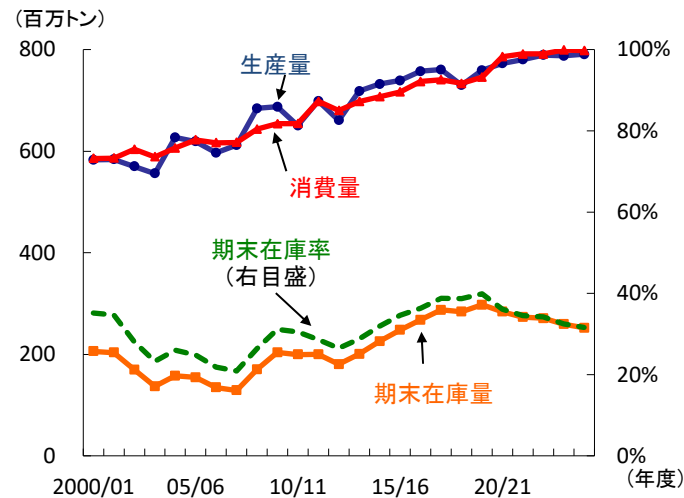
消費量 前年度比  前月比 

- ・中国、バングラデシュ等で上方修正されたものの、EU、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。史上2番目の見込み。

輸血量 前年度比  前月比 

- ・EU、米国等で上方修正されたものの、ロシア、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



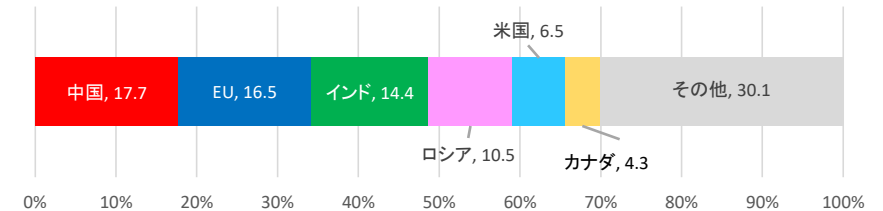
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

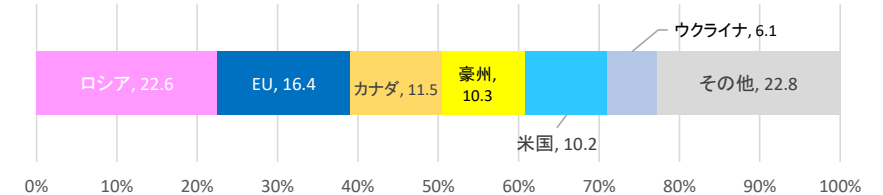
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	789.2	787.6	790.8	▲ 7.4	0.4
消費量	791.4	799.1	798.0	▲ 4.3	▲ 0.1
うち飼料用	154.9	158.5	147.7	▲ 4.0	▲ 6.8
輸血量	220.7	219.0	212.8	▲ 3.2	▲ 2.8
輸入量	212.1	217.2	207.1	▲ 2.3	▲ 4.7
期末在庫量	271.0	259.6	252.3	▲ 1.3	▲ 2.8
期末在庫率	34.2%	32.5%	31.6%	0.0	▲ 0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 June 2024)

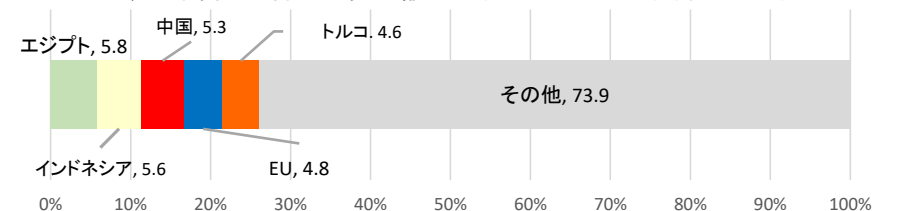
○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(790.8百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸血量(212.8百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(207.1百万トン)(単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は上方修正され 51.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 51.0 百万トンと、前年度と比べ 3.5%増、過去 5 年平均(48.2 百万トン)と比べても 5.8%増となる見込み。

種類別には、冬小麦が天候に恵まれハード・レッド・ウインター(HRW)の収穫量が増加したことを受け前月予測から 0.5 百万トン上方修正され前年度比 4 %増の 35.2 百万トン、春小麦及びデュラム小麦が前月予測からの変更はなく前年度比 3 %増の 15.8 百万トンとなる見込み。同「Wheat Outlook」(2024.6.14)によれば、2024/25 年度の品種別生産量は、HRW は、前月予測からカンザス州及びモンタナ州の実生産量が増加することを受け 0.6 百万トン上方修正され、干ばつからの回復で前年度から収穫面積と単収が増加することにより前年度比 21%増の 19.8 百万トンとなる見込み。他方、ソフト・レッド・ウインター(SRW)及びホワイト・ウインター(WW)は、前月予測から両品種合計で 0.1 百万トン下方修正され、SRW が前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等もあり前年度比 24%減の 9.3 百万トン、WW が単収の増加から同 14%増の 6.2 百万トンとなる見込み。

同「Crop Progress」(2024.6.10)によれば、6 月 9 日現在、冬小麦の収穫進捗率は 12%と前年度同期の 7 %、過去 5 年平均の 6 %をいずれも上回っている。作柄は「やや良～良」の割合が 47%と、干ばつの影響があった前年度同期の 38%を 9 ポイント上回っている。また、春小麦の作付進捗率は 98%とほぼ終了。作柄は「やや良～良」の割合が 72%と、適時の降雨と適度な気温により前年度同期の 60%を 12 ポイント上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、増産による輸出余力の増加に加え、ロシア及びウクライナの減産による輸出量の下方向修正に伴う米国産の相対的な価格競争力の高まり等を受けて前月予測から 0.7 百万トン上方修正され 21.8 百万トンと、前年度と比べ 11.1%増で 4 年ぶりの高水準となるものの、過去 5 年平均(23.1 百万トン)比では 5.6%減となる見込み。6 月 10 日時点の FOB 価格は、米国産は冬小麦の収穫が始まり 1 トン当たり 6 ドル下落し 280 ドルとなる一方、カナダ産は 291 ドル、アルゼンチン産及び豪州産いずれも供給の減少等から上昇し、アルゼンチン産 294 ドル、豪州産 301 ドルとなっており、米国産の価格競争力が高まっている。

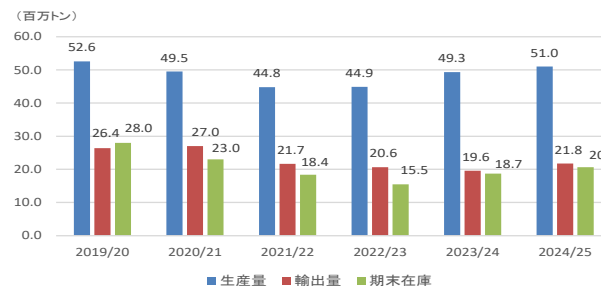
2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され 20.6 百万トンとなるものの、前年度に比べ 10.3%増加し 4 年ぶりの高水準。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.3	51.0	0.5	3.5
消費量	30.4	30.3	30.6	-	0.9
うち飼料用	2.1	2.5	2.7	-	11.0
輸出量	20.7	19.6	21.8	0.7	11.1
輸入量	3.3	3.8	3.3	-	▲ 14.2
期末在庫量	15.5	18.7	20.6	▲ 0.2	10.3
期末在庫率	30.4%	37.5%	39.4%	▲ 0.9	1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.08	15.37	-	1.9
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.32	0.03	1.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 June 2024)

図：米国の小麦の生産量・輸出量等の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.6.12)をもとに農林水産省で作成

写真 米国オレゴン州の冬小麦の圃場 (2024.6.3)



オレゴン州ワスコ郡の冬小麦の圃場。天候に恵まれ順調に生育している。

撮影者：ジョッシュ・ドゥーリング氏

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度比 8.3%増の 34.6 百万トンの見込み

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2024.6.20)によれば、2024/25 年度の小麦全体の生産量は、前月予測からの変更はなく 34.6 百万トンと、干ばつの影響を受け減産となった前年度に比べ 8.3%増、過去 5 年平均と比べ 10.3%増加する見込み。

種類別の生産量は、普通小麦、デュラム小麦ともに前月予測からの変更はなく、それぞれ 28.9 百万トン(前年度比 3.7%増、過去 5 年平均比 9.3%増)、5.7 百万トン(同 39.8%増、15.6%増)の見込み。

「Canadian Drought monitor」(2024.5.31)によれば、春小麦の主要産地であるプレーリー平原では、3 月までは乾燥天候であったものの、4、5 月に降雨に恵まれたことから作柄は前年度に比べ改善している。

主要生産州の各州政府によれば、サスカチュワン州では、6 月 10 日現在、春小麦及びデュラム小麦の作付けはほぼ終了。気温の低下と播種の遅れにより生長は例年よりも遅れているものの、「やや良～良」の作柄の割合は春小麦が 87% (前年度同期 81%)、デュラム小麦が 93% (同 72%) と干ばつだった前年度に比べ改善している。アルバータ州では、6 月 11 日現在、春小麦の作付けは終了。出芽進捗率は低温により 92.7%と、前年度(前年 6 月 5 日 97.3%)を下回っている。マニトバ州では、6 月 11 日現在、春小麦の作付進捗率は 98%と作付けはほぼ終了し、早播きの春小麦は 3～5 葉期となっている。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測に比べ 0.3 百万トン上方修正され、前年度比 5.5%増の 25.0 百万トンの見込み。種類別には、普通小麦は高タンパク質小麦の堅調な世界需要を受け前年度に比べ 0.5%増加し 20.5 百万トン。デュラム小麦も生産量の回復による輸出余力の増加を受け、前年度比 36.4%増の 4.5 百万トンとなる見込み。

カナダ穀物委員会(CGC)によれば、2024 年 4 月の輸出量は 253.5 万トン。種類別には、普通小麦は 212.6 万トンで、輸出先国は中国(19.6%)、インドネシア(15.8%)、日本(8.9%)の順。また、デュラム小麦は 40.9 万トンで、モロッコ(35.9%)、アルジェリア(18.3%)、イタリア(16.4%)の順。普通小麦の中国向け輸出シェアは、2022/23 年度は 15.1%で第 1 位、2023/24 年度のうち 2023 年 8 月～2024 年 4 月の間も 16.5%と同じく第 1 位である。USDA によれば、デュラム小麦のカナダが占める輸出シェアはほぼ毎年 50%以上であったものの、2023 年 7～2024 年 3 月の間は干ばつによる減産を受け 43%となり前年度同期の 70%から大きく低下した。この間、主要輸入国のうちイタリアは輸入先をカナダからトルコ、ロシア等へシフトした。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は 3.2 百万トンと前年度に比べ 16.0%減の見込み。

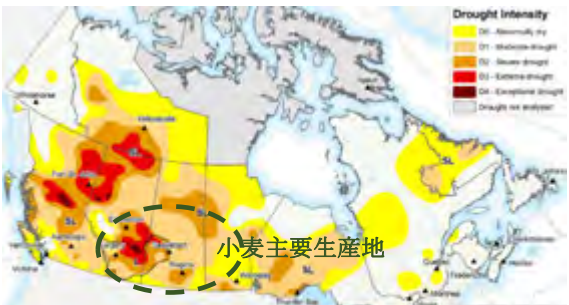
小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)			
			予測値、()はAAFC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	34.3	32.0	34.0	(34.6)	-	6.4
消 費 量	9.5	9.2	9.3	(9.3)	-	1.1
うち飼料用	4.3	4.0	4.0	(5.0)	-	-
輸 出 量	25.6	25.0	24.5	(25.0)	-	▲ 2.0
輸 入 量	0.6	0.6	0.6	(0.2)	-	▲ 8.3
期末在庫量	3.5	1.9	2.6	(3.2)	▲ 0.5	40.1
期末在庫率	10.0%	5.5%	7.8%	(9.2%)	▲ 1.5	2.3

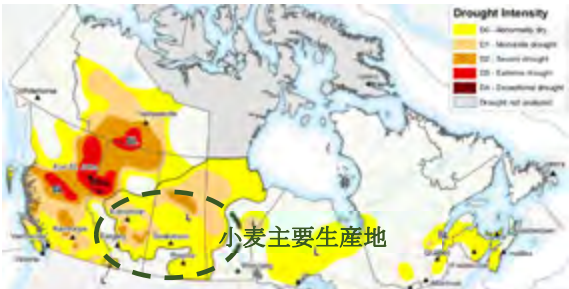
(参考)
収穫面積(百万ha) 10.08 10.68 10.70 (10.73)
単収(t/ha) 3.41 2.99 3.18 (3.23)
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 June 2024)

図 カナダの干ばつの推移(2024 年 4 月 30 日、2024 年 5 月 31 日)

＜2024 年 4 月 30 日＞



＜2024 年 5 月 31 日＞



D0: 異常な乾燥 D1: 中程度の干ばつ D2: 深刻な干ばつ
D3: 極度の干ばつ D4: 例外的な干ばつ

資料: AAFC「Canadian drought monitor」(2024. 5. 31、2024. 4. 30)

< 豪州 > 2024/25 年度の生産量は 29.1 百万トンの見込み

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2024.6.4)によれば、2024/25 年度の実生産量は、エルニーニョ現象の影響による降雨不足のために土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が増加（収穫面積は前年度比 2.6%増、単収は同 9.2%増）することを受け 29.1 百万トンと、前年度と比べ 12.1%増、過去 10 年平均(26.6 百万トン)と比べても 9.6%増となる見込み。

主要生産州では、ウェスタンオーストラリア州(WA 州)の実生産量は、収穫面積が前年度から 1.1%増加し 4.7 百万ヘクタールとなり、単収も降雨不足であった前年度から増加することを受け 8.5 百万トンと、前年度に比べ 10.4%増加する見込み。なお、作付け時の土壌水分は、平年以下か大幅に下回っていたものの、5 月の降雨により一部地域を除き土壌水分が改善した。また、ニューサウスウェールズ州(NSW 州)の実生産量は 9.8 百万トンと、作付け時の土壌水分が平年以上であったこと等により収穫面積が前年度から 9.1%増加し 3.6 百万ヘクタールとなることや、単収も降雨不足であった前年度から増加することを受け前年度に比べ 38.1%増加する見込み。なお、5 月 23 日現在、同州の降雨量は平年並みとなっている。

西豪州穀物産業協会 (GIWA) (2024.6.14)によれば、WA 州では、6 月初めは州の大部分で非常に乾燥した状態であったものの、その後、南部沿岸地域を除き十分な降雨に恵まれた。2024/25 年度の同州の小麦作付面積は、なたねの発芽不良により小麦に蒔き直しを行ったこと等を受け、前月予測から 0.3 百万ヘクタール上方修正され 5.0 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2024/25 年度の輸出量は、2023/24 年度の実生産量が減少し、輸出可能な在庫が減少したことを受け 19.9 百万トンと、前年度に比べ 13.1%減となるものの、中国と東南アジアの旺盛な需要に支えられることもあり、過去 10 年平均(19.0 百万トン)と比べれば 4.5%増となる見込み。

2023/24 年度のうち 2023 年 10 月～2024 年 4 月の輸出量は 1,718.3 万トンと、前年度同期 (1,957.2 万トン) に比べ 12.2%減少しており、乾燥により生産量が減少したことが輸出量減少の主因。このうち、2024 年 4 月の輸出量は 186.2 万トンで、前年度同期 (304.6 万トン) に比べ 38.9%減少しており、輸出先国は、中国(29.5%)、イエメン(9.9%)、インドネシア(8.3%)の順。

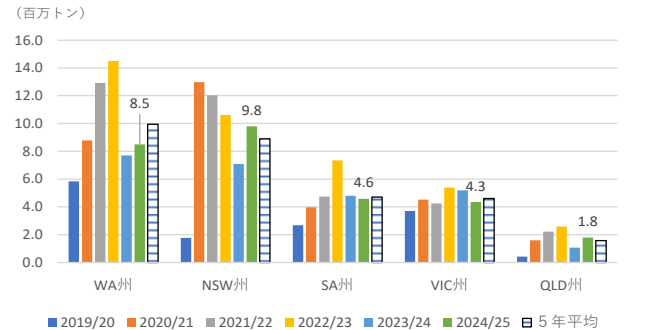
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の下方修正等を受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 3.8 百万トンと、前年度に比べ 5.6%増となる見込み。

小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	40.6	26.0	29.0 (30.1)	-	11.5
消 費 量	8.0	7.0	7.0 (8.3)	-	-
うち飼料用	4.5	3.5	3.5 (4.5)	-	-
輸 出 量	31.8	20.0	22.0 (21.5)	▲ 0.5	10.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	-
期末在庫量	4.4	3.6	3.8 (2.5)	1.0	5.6
期末在庫率	11.0%	13.2%	13.0% (8.6%)	3.6	▲ 0.2

(参考)
収穫面積(百万ha) 13.05 12.50 12.50 (12.50)
単収(t/ha) 3.11 2.08 2.32 (2.41)
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料: ABARES 「Australian Crop Report」(2024.6.4)をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

2024年4月		2023年10月～2024年4月		2022年10月～2023年4月	
国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア	国 名	輸出量 シェア
中国	54.9 29.5%	中国	416.6 24.2%	中国	547.2 28.0%
イエメン	18.4 9.9%	インドネシア	272.0 15.8%	インドネシア	256.8 13.1%
インドネシア	15.5 8.3%	フィリピン	160.8 9.4%	フィリピン	177.8 9.1%
フィリピン	13.6 7.3%	イエメン	129.3 7.5%	韓国	175.9 9.0%
日本	12.6 6.7%	ベトナム	118.2 6.9%	ベトナム	161.2 8.2%
南アフリカ	9.2 5.0%	日本	104.3 6.1%	タイ	123.7 6.3%
その他	62.0 33.3%	その他	517.1 30.1%	その他	514.6 26.3%
計	186.2 100.0%	計	1,718.3 100.0%	計	1,957.2 100.0%

資料: ABARES 「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25 年度の生産量は 127.1 百万トンの見込み

【生育・生産状況】欧州委員会(2024.5.30)によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 127.1 百万トンと、2023 年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、降雨過多等により収穫面積及び単収がともに減少することを受け、前年度と比べ 4.1%減少する見込み。

このうち、普通小麦は 120.2 百万トンと、前年度比 4.2%減、5 年平均比でも 5.2%減となる見込み。デュラム小麦も 6.8 百万トンと、前年度比で 2.3%減、5 年平均比でも 7.7%減となる見込み。小麦全体の国別では、スペインが干ばつからの回復により前年度比 56.2%増の 6.2 百万トンとなった一方、フランスが降雨過多等を受け前年度比 9.1%減の 32.7 百万トン、ドイツも前年度比 11.3%減の 19.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、ウクライナの減産を受け同国からの輸入が減少することから、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 10.0 百万トンと、前年度比 23.1%減となるものの、過去 5 年平均(8.2 百万トン)と比べると 22.7%増となる見込み。前年度からの減少は、ウクライナの減産に伴い同国からの輸入量が減少するほか、EU 全体としては小麦は減産となるものの、大麦及びとうもろこしの増産に伴い飼料用小麦の輸入が減少することが要因。

2024/25 年度の輸出量は、黒海産小麦の輸出量の減少に伴う EU 産の相対的な価格競争力の高まり等を受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正されるものの、主要輸出国であるフランス等での降雨過多を受け減産すること等により前年度比 5.4%減、他方、過去 5 年平均(34.7 百万トン)と比べれば 0.8%増の 35.0 百万トンの見込み。

欧州委員会によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 7 月から 2024 年 3 月までの輸出量は、普通小麦が 2,795.7 万トンで、前年度同期に比べ 13.4%増。同期間の輸出先国別のシェアは、モロッコ 14.5%、アルジェリア 10.3%、ナイジェリア 8.9%、中国 8.2%の順。また、デュラム小麦は 58.0 万トンで、前年度同期に比べ 17.7%減。同期間の輸出先国別のシェアは、チュニジア 27.7%、スリランカ 10.4%、英国 9.9%、コートジボワール 8.4%の順。

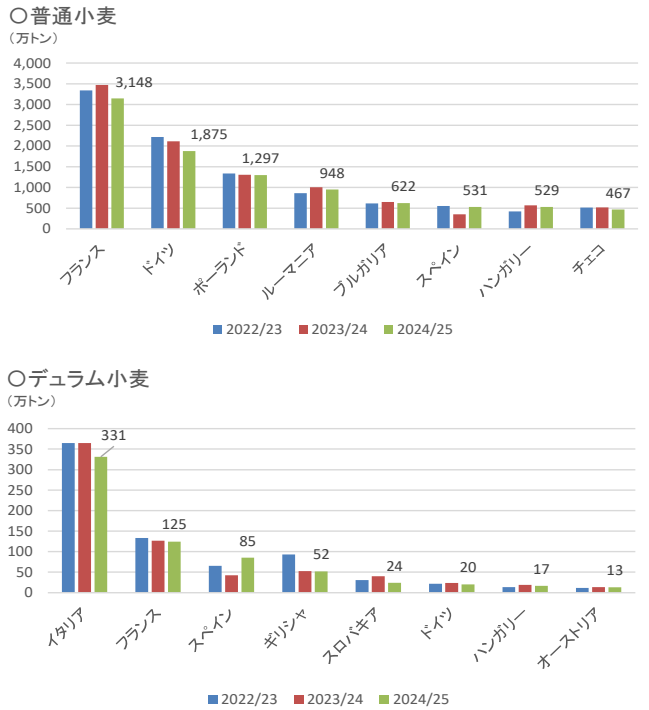
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量及び輸入量が減少することを受け、前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、前年度と比べても 24.7%減の 11.4 百万トンとなり、史上 2 番目に低い水準となる見込み。

小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	134.2	130.5 (129.3)	▲ 1.5	▲ 2.7
消費量	109.0	111.0	109.3 (108.5)	▲ 2.0	▲ 1.6
うち飼料用	45.0	46.5	44.5 (44.5)	▲ 2.0	▲ 4.3
輸出量	35.1	37.0	35.0 (32.8)	1.0	▲ 5.4
輸入量	12.2	13.0	10.0 (6.9)	▲ 1.0	▲ 23.1
期末在庫量	16.0	15.2	11.4 (14.3)	▲ 3.0	▲ 24.7
期末在庫率	11.1%	10.3%	7.9% (10.1%)	▲ 2.0	▲ 2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.40	24.20	23.40 (22.74)	-	▲ 3.3
単収(t/ha)	5.50	5.54	5.58 (5.69)	▲ 0.06	0.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 EU27 の普通小麦及びデュラム小麦生産量の推移



資料：欧州委員会「EU cereals production ,area and yield」
(2024. 5. 30)をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の冬小麦の収穫は順調

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測から変更はなく 140.0 百万トンと、前年度と比べ 2.5%増、過去 5 年平均(135.8 百万トン)と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中央气象台「全国農業気象月報」によれば、5 月の天候は、河南省を始め大部分の冬小麦産地では、日照・気温ともに十分で、乾燥の影響も軽微であり、小麦の十分な成熟及び収穫に適した天候となった。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」の 6 月上旬の情報によれば、2024/25 年度の冬小麦の 6 月上旬現在の生育状況は、大部分の産地で登熟期及び収穫期を迎えている。

農業農村部によれば、6 月 3 日現在の冬小麦の収穫面積は 10.47 百万ヘクタールとなっており、収穫進捗率も 46.3%と、小麦の成熟と収穫に適した天候であったことを受けて前年度同期 33.7%に比べ進展している。産地別には、四川省及び湖北省では収穫が終了し、河南省と安徽省では 80%以上、陝西省では 30%程度、江蘇省では 15%以上、山西省及び山東省では 10%以上となっている。また、2023/24 年度と比較した主要産地の冬小麦の単収は、甘肅省、陝西省、河南省、安徽省及び四川省は前年度比 1.5%以上の増加が予想されており、それ以外の主要産地でも前年度比 1.5%以内の増減に収まり横ばいが予想されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から食用用途等が 1.0 百万トン上方修正され 151.0 百万トンと、前年度と比べ 1.9%減となるものの、過去 5 年平均(146.2 百万トン)と比べると 3.3%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 11.0 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和することから、前年度に比べ 15.4%減少する見込み。中国海関統計によれば、2024 年 1 月から 4 月までの輸入量は 623.6 万トンと、前年に比べ 3.4%増とわずかに増加している。輸出先別には、豪州 246.9 万トン、カナダ 141.0 万トン、フランス 130.5 万トン、米国 69.8 万トンで、カナダ、フランス及び米国の輸入シェアが前年同期から増加した一方、豪州の輸入シェアは、2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 59.6%から 39.6%に減少している。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、消費量の上方修正等を受け前月予測から 0.6 百万トン下方修正され 132.5 百万トンと、前年度に比べ 0.7%減となる見込み。

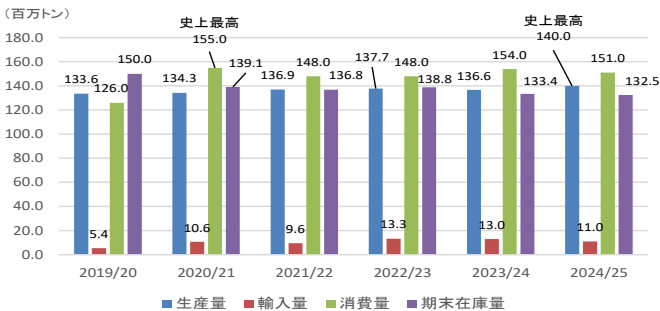
小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	137.7	136.6	140.0	(140.0)	-	2.5
消 費 量	148.0	154.0	151.0	(146.5)	1.0	▲ 1.9
うち飼料用	33.0	37.0	33.0	(28.0)	-	▲ 10.8
輸 出 量	1.0	1.0	0.9	(1.2)	-	▲ 10.0
輸 入 量	13.3	13.0	11.0	(10.7)	-	▲ 15.4
期末在庫量	138.8	133.4	132.5	(142.1)	▲ 0.1	▲ 0.7
期末在庫率	93.2%	86.1%	87.2%	(96.3%)	▲ 0.6	1.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.70	(23.65)	-	0.3
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.91	(5.92)	-	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 中国の小麦の生産量・輸入量・消費量等の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024. 6. 12)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

国 名	2024年1月～4月		2023年1月～4月		2023年1月～2023年12月	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
豪州	246.9	39.6	359.8	59.6	693.9	57.4
カナダ	141.0	22.6	110.2	18.3	82.5	6.8
フランス	130.5	20.9	77.5	12.8	254.8	21.1
米国	69.8	11.2	47.5	7.9	92.6	7.7
カザフスタン	21.1	3.4	3.1	0.5	51.9	4.3
ロシア	13.3	2.1	2.8	0.5	28.5	2.4
その他	1.1	0.2	2.5	0.4	5.7	0.5
計	623.6	100.0	603.3	100.0	1,209.9	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の生産量は降霜と乾燥により 83.0 百万トンに下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測から 5.0 百万トン下方修正され 83.0 百万トンと、前年度と比べ 9.3%減となる見込み。ただし、過去 5 年平均(83.5 百万トン)と比べれば 0.6%減に留まる見込み。種類別には、冬小麦は霜害と高温乾燥により前月予測から 5.0 百万トン下方修正され 59.0 百万トンとなった一方、春小麦は前月予測から変更はなく 24.0 百万トンの見込み。

同「World Agricultural Production」(2024.6.12)によれば、生産量の約 7 割を占める冬小麦は、5 月初旬の寒波により主要産地で霜の被害を受けた。また、欧州部の大部分で高温乾燥の影響を受けて生産量が減少する懸念がある。生産量の約 3 割を占める春小麦は、5 月 31 日現在の作付けは 10.4 百万ヘクタールと、乾燥により前年度同期の 13.1 百万ヘクタールに比べ遅れており、過去 10 年で最も遅れている。

小麦全体の収穫面積は、前月予測から 0.4 百万ヘクタール下方修正され 28.1 百万ヘクタールと、前年度と比べ 2.5%減。単収も前月予測から 0.14 トン/ヘクタール下方修正され 2.95 トン/ヘクタールと、前年度と比べ 6.9%減の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の減少を受け前月予測から 4.0 百万トン下方修正され 48.0 百万トンと、史上最高となった前年度に比べ 11.1%減となる見込み。他方で、EU 及びウクライナの小麦生産量も減少することもあり、両国に比べ引き続き価格競争力を維持する可能性が高いと予想されており、過去 5 年平均(41.7 百万トン)に比べ 15.1%増と史上 2 番目の輸出量となる見込み。また、デュラム小麦は、欧州への輸出量増加で国内価格が上昇したため、2023 年 12 月～本年 5 月まで輸出禁止措置を導入していたものの、デュラム小麦の作付面積が前年度に比べ 30%増の 1.5 百万ヘクタールとなったことも受け、当該輸出禁止措置の延長は予定されていない。

現地情報会社によれば、2023/24 年度のうち 2023 年 7 月から 2024 年 5 月までの輸出量は、4,933.2 万トンと、2 年連続の豊作による輸出余力の増加等を受け前年度同期(4,476.0 万トン)を 10.2%上回った。なお、5 月の輸出量は 419.9 万トンで、輸出先国別には、エジプト 61.1 万トン(14.6%)、トルコ 43.4 万トン(10.3%)、ケニア 31.8 万トン(7.6%) の順。6 位はブラジル 15.9 万トン(3.8%) で、2023 年 7 月から 2024 年 5 月までの輸出量は 72.8 万トンと、前年度同期を 51%上回り輸出先国の多角化が進んでいる。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.3 百万トン下方修正され 7.7 百万トンと、消費量及び輸出量は減少するものの、当該減少幅以上に生産量も減少となることから前年度に比べ 30.8%減となる見込み。

小麦－ロシア (主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	92.0	91.5	83.0 (85.5)	▲ 5.0	▲ 9.3
消 費 量	42.0	41.0	38.8 (40.2)	▲ 1.0	▲ 5.5
うち飼料用	19.0	18.0	16.0 (16.5)	▲ 1.0	▲ 11.1
輸 出 量	48.0	54.0	48.0 (46.6)	▲ 4.0	▲ 11.1
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	14.4	11.2	7.7 (10.0)	▲ 0.3	▲ 30.8
期末在庫率	16.0%	11.8%	8.9% (11.5%)	0.2	▲ 2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.10 (28.00)	▲ 0.40	▲ 2.5
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.95 (3.05)	▲ 0.14	▲ 6.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 ロシアの小麦の生産量・輸出量等の推移

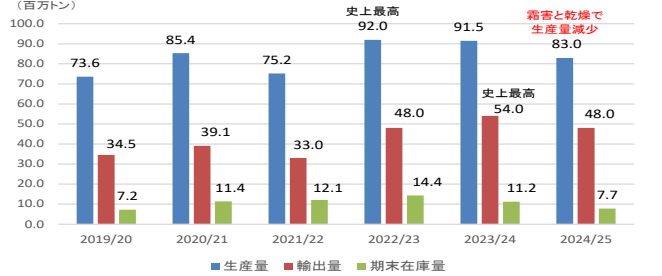


表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

2023/24年度 (2024年5月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年5月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
エジプト	61.1	14.6	エジプト	771.6	15.6
トルコ	43.4	10.3	トルコ	642.4	13.0
ケニア	31.8	7.6	バングラデシュ	364.6	7.4
バングラデシュ	30.4	7.2	パキスタン	213.0	4.3
イエメン	28.8	6.9	アルジェリア	202.2	4.1
ブラジル	15.9	3.8	カザフスタン	201.6	4.1
イラン	14.2	3.4	サウジアラビア	192.0	3.9
その他	194.3	46.3	その他	2,346.0	47.6
計	419.9	100.0	計	4,933.2	100.0

資料: 現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2024/25 年度の生産量は乾燥により 19.5 百万トンに下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、乾燥により前月予測から1.5百万トン下方修正され19.5百万トンと、前年度と比べ15.2%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22年度、27.9百万トン)と比べても30.2%減と、2012/13年度に15.8百万トンとなった以降で最小の生産量となる見込み。

同「World Agricultural Production」(2024.6.12)によれば、3月以降の降水量が平年を下回り、5月も十分な降水量が得られなかったことから、開花や登熟に必要な土壌水分が不足している。収穫面積は、前月予測から変更はなく4.7百万ヘクタールと、前年度と比べ6.2%減となる一方、単収は前月予測から0.32トン/ヘクタール下方修正され4.15トン/ヘクタールと、前年度と比べ9.6%減の見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、2024/25年度の春小麦の作付けは終了し、作付面積は0.25百万ヘクタールと、小麦価格の下落から油糧種子等へ作付けが変更となったこと等を受け前年度比6.4%減の見込み。5月末現在の作柄は、冬小麦及び春小麦ともに良好及び平年並みとなっているものの、乾燥の影響により葉の黄変等が一部で発生している。

【貿易状況・その他】USDA によれば、2024/25年度の輸出量は、生産量の減少を受け前月予測から1.0百万トン下方修正され13.0百万トンと、前年度と比べ28.2%減。また、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均(2017/18～2021/22年度、18.1百万トン)と比べても28.2%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2023/24年度のうち2023年7月から2024年5月までの輸出量は1,742.9万トンと、前年度同期1,555.1万トンに比べ12.1%増、ロシアのウクライナ侵攻前の2020/21年度同期1,597.9万トンと比べても9.1%増となっている。このうち、直近5月の輸出量は165.0万トンとなっており、輸出先国別には、スペイン54.2万トン(32.8%)、インドネシア31.8万トン(19.3%)、エジプト26.1万トン(15.8%)の順で、スペイン向けシェアが高くなっている。これは、スペインにおいて乾燥天候による生産量の減少や飼料用小麦需要の増加等の影響が出ていることによる。

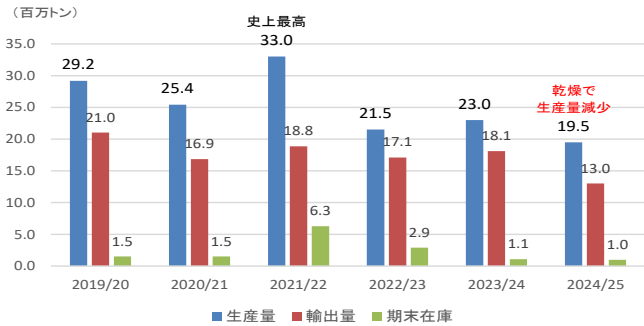
USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、生産量の下方修正を受け前月予測から0.1百万トン下方修正され1.0百万トンと、前年度に比べ11.1%減となり、史上2番目に低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	21.5	23.0	19.5 (23.7)	▲ 1.5	▲ 15.2
消 費 量	7.8	6.8	6.7 (10.8)	▲ 0.5	▲ 1.5
うち飼料用	3.0	2.0	2.0 (2.1)	▲ 0.5	-
輸 出 量	17.1	18.1	13.0 (13.0)	▲ 1.0	▲ 28.2
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	2.9	1.1	1.0 (1.0)	▲ 0.1	▲ 11.1
期末在庫率	11.6%	4.3%	4.9% (4.1%)	▲ 0.1	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	4.70 (6.00)	-	▲ 6.2
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.15 (3.95)	▲ 0.32	▲ 9.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 ウクライナの小麦の生産量・輸出量等の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.6.12)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2024年5月			2023年7月～2024年5月		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	54.2	32.8	スペイン	566.0	32.5
インドネシア	31.8	19.3	エジプト	157.3	9.0
エジプト	26.1	15.8	インドネシア	138.0	7.9
バングラデシュ	9.3	5.6	トルコ	107.3	6.2
ベトナム	8.1	4.9	ルーマニア	100.1	5.7
イタリア	7.4	4.5	パキスタン	81.4	4.7
タイ	7.3	4.4	バングラデシュ	73.7	4.2
アルジェリア	4.5	2.7	イタリア	65.6	3.8
チュニジア	3.4	2.1	ベトナム	62.7	3.6
マレーシア	3.1	1.9	アルジェリア	55.2	3.2
その他	9.9	6.0	その他	335.5	19.2
合計	165.0	100.0	合計	1,742.9	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

・ロシアで下方修正されたものの、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

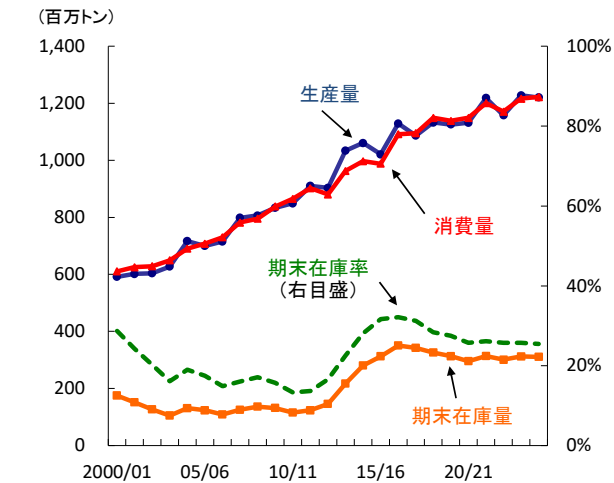
消費量 前年度比 前月比

・ザンビア、マラウィ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・ロシア等で下方修正されたものの、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2024.6.12)をもとに農林水産省にて作成

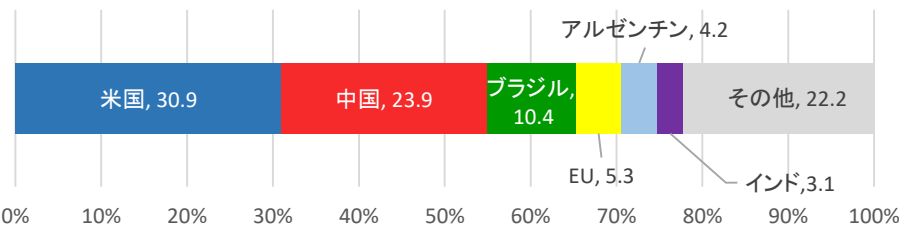
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

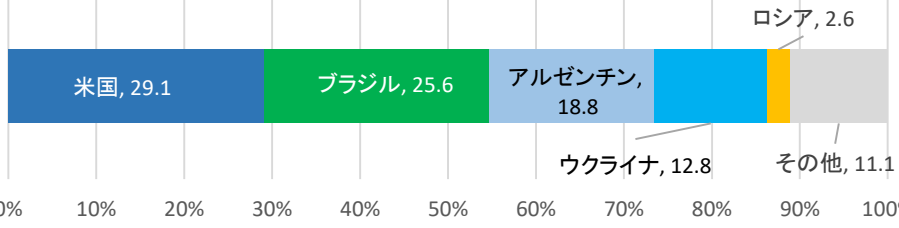
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,158.0	1,228.1	1,220.5	0.6	▲ 0.6
消費量	1,170.8	1,216.7	1,222.2	1.4	0.5
うち飼料用	732.4	760.2	774.4	0.4	1.9
輸出量	180.3	199.1	191.8	0.7	▲ 3.7
輸入量	173.4	186.6	186.2	1.8	▲ 0.2
期末在庫量	300.9	312.4	310.8	▲ 1.5	▲ 0.5
期末在庫率	25.7%	25.7%	25.4%	▲ 0.2	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 June 2024)

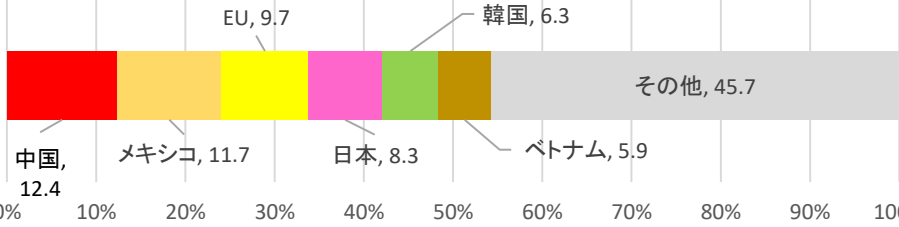
○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,220.5 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸出量(191.8 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸入量(186.2 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より 3.1%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の減少（対前年度比 5.1%減）を受け、史上最高の前年度より 3.1%減の 377.5 百万トンの見通し。作付け時の価格は前年度に史上最高の豊作となったとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA「Crop Progress」（2024.6.10）によれば、作付進捗率は 95%と概ね終了。出芽率は 85%と、前年同期（91%）を下回ったものの、過去 5 年平均（84%）とほぼ同水準。5 月に中西部で降雨があり、作物の出芽に十分な水分量が確保されているとみられる。作柄評価が「良～やや良」の比率は 74%であり、乾燥の影響を受けた前年同期（61%）を上回っている。作柄を決定する 7 月までの気温と降雨を引き続き注視する必要がある。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、安価なとうもろこし価格から飼料需要が増加したことを受けて、前年度に比べ 0.4%増の 320.2 百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、輸出競合国であるブラジルやアルゼンチン、ウクライナからの輸出が減少する一方、メキシコ等からの需要が増大するとの見通しから、前年度より 2.3%増の 55.9 百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.6.12）によれば、本年 6 月の米国産の輸出価格は、6 月 7 日現在、作柄が良好で供給増が見込まれることから前月から 4 ドル/トン下落し、200 ドル/トン。なお、2023 年 9 月～2024 年 5 月の輸出量は 3,587 万トンと、前年度同期の 2,580 万トンより 39%増。主な輸出先は、メキシコ（1,127 万トン）、中国（962 万トン）、日本（427 万トン）の順。干ばつにより減産したメキシコ向け輸出量が最も大きくなっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、昨年の史上最高に次ぐ高水準の生産量となる見通しを受けて、前年度より 4.0%増の 53.4 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 0.4 ポイント上昇し 14.2%と、過去 3 年平均（11.0%）及び過去 10 年平均（12.4%）をいずれも上回っている。

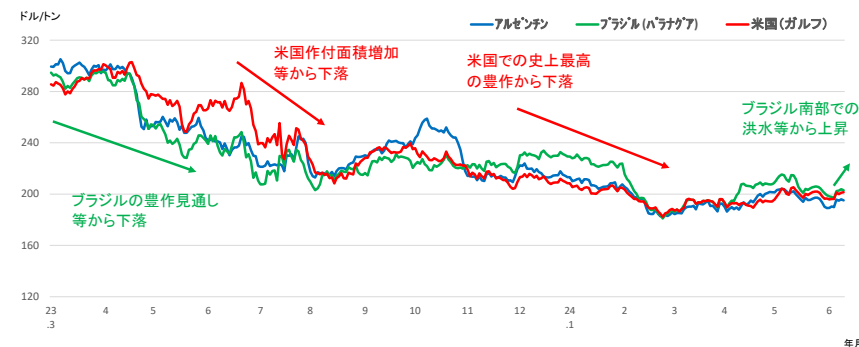
とうもろこし－米国

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 （見込み）	2024/25（24年9月～25年8月）		
			予 測 値	前月予測から の変更	対前年度 増減率（%）
生 産 量	346.7	389.7	377.5	-	▲ 3.1
消 費 量	306.0	318.9	320.2	-	0.4
うち飼料用	139.4	144.8	146.1	-	0.9
エタノール用等	131.5	138.4	138.4	-	-
輸 出 量	42.2	54.6	55.9	-	2.3
輸 入 量	1.0	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	34.6	51.4	53.4	-	4.0
期末在庫率	9.9%	13.8%	14.2%	-	0.4
（参考）					
収穫面積（百万ha）	31.85	35.01	33.23	-	▲ 5.1
単収（t/ha）	10.89	11.13	11.36	-	2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 June 2024）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成。

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は増加の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 9 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上第 2 位の生産量となる見通し。この際、エルニーニョ現象が収束し、ラニーニャ現象に移行する見込みもあり、収穫面積は増加する可能性がある。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.6.13）によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、大豆への作付けシフトによる作付面積の減少や生育初期の高温乾燥等による単収の低下から前年度比 13.5%減の 114.1 百万トンの見込み（P.23 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。収穫終盤を迎えている夏とうもろこしは、エルニーニョ現象による南部での降雨過多の影響等により、前年度比 13.7%減の 23.6 百万トンの見込み。冬とうもろこしも、中西部の高温乾燥の影響を受け、前年度比 13.4%減の 90.5 百万トンの見込み。

5 月上旬、夏とうもろこしの主要生産州である南部のリオ・グランデ・ド・スール州において多雨により洪水が発生した。リオ・グランデ・ド・スール州政府の機関 EMATER/RS の報告（2024.6.4）によれば、同州でのとうもろこしの生産損失は 0.4 百万トンとみられる。

一方、冬とうもろこしは、CONAB によれば、6 月中旬、主要生産州の中西部マット・グロッソ州では登熟期から成熟期にあり、一部地域では収穫が開始され、作柄は良好とみられる。

USDA によれば、6 月上旬、全国的に高温乾燥が広がった。6 月 7 日現在、中西部マット・グロッソ州の収穫進捗率は 11%と、過去 5 年平均（9%）を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物消費の増加を背景とした飼料用需要の増加から、前年度より 1.3%増の 80.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給量（前年度の期末在庫量と本年度の実産量の合計）の減少を受けて前年度より 2.0%減の 49.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～5 月の輸出量は 7.5 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年度同期比 29%減。内訳は、中国（1.4 百万トン）、イラン（0.9 百万トン）、エジプト（0.8 百万トン）の順。なお、とうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡し、輸送や港湾の輸出キャパシティに余裕が出てくる本年後半以降、冬とうもろこしの収穫を受け本格化するとみられる。

とうもろこし－ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	137.0	122.0	127.0 (121.5)	-	4.1
消 費 量	78.0	79.5	80.5 (82.2)	-	1.3
うち飼料用	61.5	63.0	64.0 (56.5)	-	1.6
輸 出 量	54.3	50.0	49.0 (40.9)	-	▲ 2.0
輸 入 量	1.3	1.3	1.5 (2.0)	-	15.4
期末在庫量	10.0	3.8	2.8 (5.6)	-	▲ 26.0
期末在庫率	7.6%	3.0%	2.2% (4.5%)	-	▲ 0.8

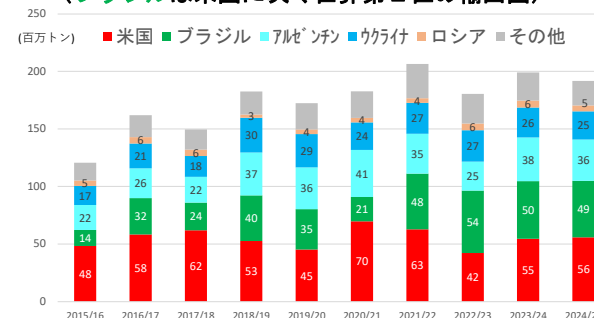
(参考)

収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30 (20.60)	-	3.7
単収(t/ha)	6.12	5.67	5.70 (5.90)	-	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC「Grain Market Report」(23 May 2024)

図 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

（ブラジルは米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国）



資料：USDA「PS&D」(2024.6.12) をもとに農林水産省にて作成。

＜ アルゼンチン ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から減少する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、前月予測からの変更はなく、本年 9 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしの作付面積を減少させる見込みから、史上最高の前年度より 3.8%減となるものの、過去 5 年平均より 1.8%増の 51.0 百万トンとなる見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、干ばつにより減産した 2022/23 年度より 47%増の 53.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府によれば、6 月 6 日時点でとうもろこしの収穫進捗率は前年並みの 46%。USDA によれば、5 月上旬時点で前年同期より収穫が遅れていたものの、6 月上旬、温暖で乾燥した気候により収穫が進展した。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度並みの 14.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の生産量となった前年度からの減産を受けて、前年度より 5.3%減の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～4 月の輸出量は 11.8 百万トンで、2022/23 年産の減産から回復したことを受け、前年同期（6.5 百万トン）比で 82%増となった。内訳は、ベトナム（2.2 百万トン）、ペルー（1.3 百万トン）、アルジェリア（1.2 百万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、継続している。前年 12 月 10 日、右派のミレイ政権が誕生し、同 12 日、カブート経済相は通貨ペソの公式レートを引下げ、1 ドル＝800 ペソとした。

また、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。

現地情報によれば、アルゼンチンのバイオエコノミー事務局は、本年 5 月、中国を訪問し、GM とうもろこしの輸出に必要な承認が得られたと、声明を発表した。両国は昨年、アルゼンチン産の中国向け輸出について合意したものの、合意以降も検疫の関係で出荷が行われない状況が続いており、前年からブラジル産輸入が増加した中国の輸入多角化の動向を把握する上でも、中国の承認を受けて輸出が実行に移されるか注視する必要がある。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	36.0	53.0	51.0 (60.0)	-	▲ 3.8	
消 費 量	14.2	14.8	14.8 (21.3)	-	-	
うち飼料用	10.0	10.4	10.3 (16.0)	-	▲ 1.0	
輸 出 量	25.2	38.0	36.0 (37.5)	-	▲ 5.3	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	1.3	1.5	1.7 (3.1)	-	13.0	
期末在庫率	3.3%	2.9%	3.4% (5.2%)	-	0.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.75	7.00	6.40 (8.10)	-	▲ 8.6	
単収(t/ha)	5.33	7.57	7.97 (7.28)	-	5.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

写真：北部サンタフェ州の遅植えとうもろこしの

圃場風景（2024 年 5 月 29 日撮影）



本圃場のとうもろこしは 2023 年 12 月末に作付けされ、現在、成熟期にある。実の水分含有量が大きいため、収穫は 7 月に予定されている。

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から増加する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

USDA によれば、6 月上旬、主産地の黒竜江省では、降雨を受けて生育初期の水分状況が良好となり、とうもろこしの生育に好影響を与えている。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」によれば、6 月上旬現在、主産地の黒竜江省では、三葉期から七葉期を迎えている。

一方、報道情報によれば、6 月中旬、河南省や山東省では高温乾燥となり、一部地域では干ばつにより作付けに影響が出ているとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大し、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2024.1.17）によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるなどの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、ブラジル産及びウクライナ産への堅調な需要が続くことから、前年度並みの 23.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～4 月の輸入量は、前年同期比 6.5%増の 908.0 万トン。内訳は、ブラジル（573.6 万トン）、ウクライナ（211.9 万トン）、米国（99.0 万トン）の順。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 4 月号」によると、4 月の国内価格は、一部の貿易業者が小麦の新穀の購入に向けてとうもろこし備蓄を販売し、供給が増加したことから、2,440 元/トンと前月（2,500 元/トン）から小幅に下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産により前年度より 0.9%増の 212.8 百万トンの見込み。

とうもろこしー中国

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	277.2	288.8	292.0 (293.0)	-	1.1	
消 費 量	299.0	307.0	313.0 (315.5)	-	2.0	
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	18.7	23.0	23.0 (22.0)	-	-	
期末在庫量	206.0	210.9	212.8 (179.2)	-	0.9	
期末在庫率	68.9%	68.7%	68.0% (56.8%)	-	▲ 0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70 (44.20)	-	1.1	
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53 (6.63)	-	-	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入元国

（輸入量：万トン、シェア：%）

2024 年 1～4 月			2023 年 1 月～2023 年 12 月			2022 年 1 月～2022 年 12 月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	573.6	66.9	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	211.9	19.4	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	99.0	11.1	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	6.7	0.7	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
南アフリカ	5.6	0.7	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
ブルガリア	4.7	0.6	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	6.5	0.6	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	908.0	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成。

＜ ウクライナ ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より 10.6%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、ウクライナ農業政策食料省による作付面積の引上げを受けて前月予測から 0.7 百万トン上方修正されたものの、収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.5%減）するとともに、天候に恵まれ史上第 2 位となった前年度から単収も減少（対前年度比 8.4%減）する見込みを受け、前年度より 10.6%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 34.2%減の 27.7 百万トンとなる見通し。

ウクライナ農業政策食料省によれば、6 月 6 日時点で作付けは完了。生育ステージは三葉期から七葉期を迎えており、作柄は概ね良好。

USDA によれば、6 月上旬、ウクライナ東部で高温乾燥が見られているものの、とうもろこしの主産地である北部等においては降雨があり、生育に必要となる土壌水分量が維持されたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用需要の引上げを受けて前月予測から 0.2 百万トン上方修正されたものの、減産による供給減を受けて前年度より 5.1%減の 4.7 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の引上げを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正されたものの、供給減や EU での増産による輸入需要の減少を受け、前年度より 5.8%減、侵攻前の 2021/22 年度からも 9.3%減の 24.5 百万トンの見込み。

オデーサ港から陸路を経由せず直接臨時回廊を経由するルートによる輸出も増加しつつあり、2024/25 年度は、EU 向けの輸出が減少することもあり、輸出先が多様化する見込み。

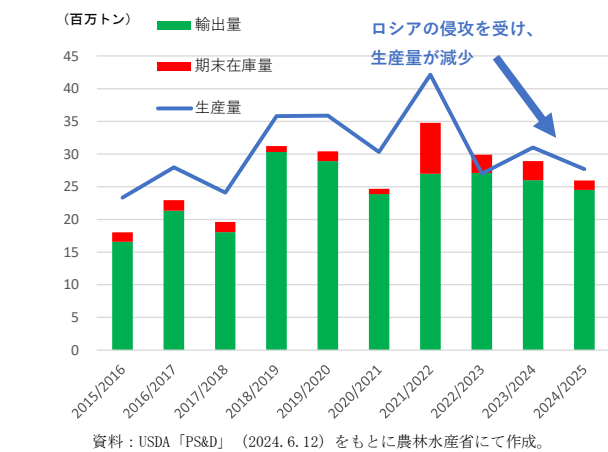
ウクライナ政府等によれば、臨時回廊による輸出が本格化した 2023 年 10 月～2024 年 5 月の輸出量は 2,308 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、黒海穀物イニシアティブ履行時の前年同時期比で 5.2%増。輸出先国は、スペイン（516.9 万トン）、中国（439.9 万トン）、エジプト（312.7 万トン）、オランダ（190.0 万トン）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減から前年度より 49.1%減、侵攻前の 5 か年平均より 40%減の 1.5 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 4.3 ポイント減の 5.1%と、2020/21 年度以来の低水準となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

(単位：百万トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	27.0	31.0	27.7 (27.7)	0.7	▲ 10.6	
消 費 量	4.9	4.9	4.7 (6.3)	0.2	▲ 5.1	
うち飼料用	4.0	3.9	3.7 (4.5)	0.2	▲ 5.1	
輸 出 量	27.1	26.0	24.5 (21.5)	0.5	▲ 5.8	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	2.8	2.9	1.5 (4.4)	-	▲ 49.1	
期末在庫率	8.7%	9.4%	5.1% (15.8%)	▲ 0.1	▲ 4.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.05	4.00	3.90 (4.06)	0.10	▲ 2.5	
単収(t/ha)	6.67	7.75	7.10 (6.83)	▲ 0.01	▲ 8.4	
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 June 2024) IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)						

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移
(2024/25 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見通し)



3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2024/25 年度

生産量

前年度比



前月比



・ガイアナで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

消費量

前年度比



前月比



・パキスタン等で下方修正されたものの、フィリピン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量

前年度比



前月比



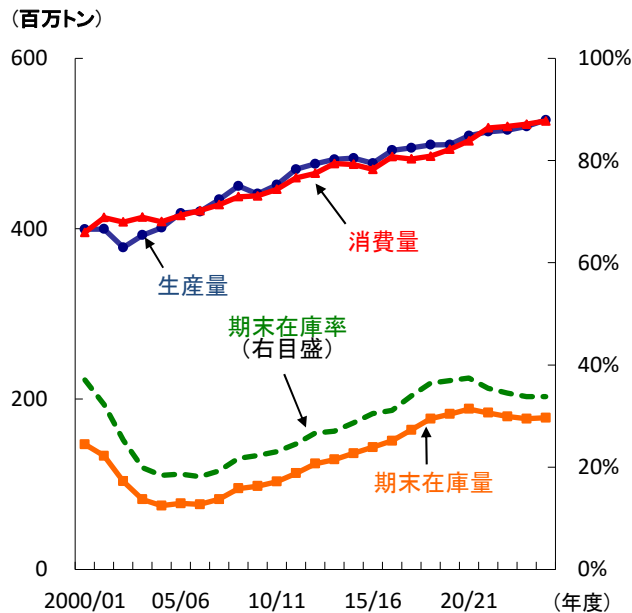
・パキスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量

前年度比



前月比



資料：USDA「PS&D」（2024. 6. 12）をもとに農林水産省にて作成

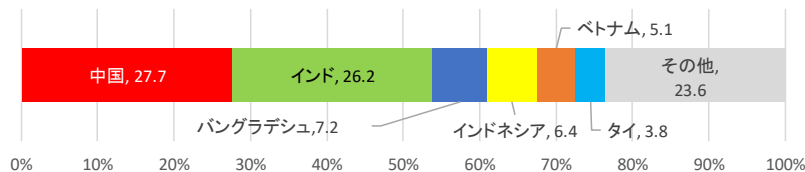
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

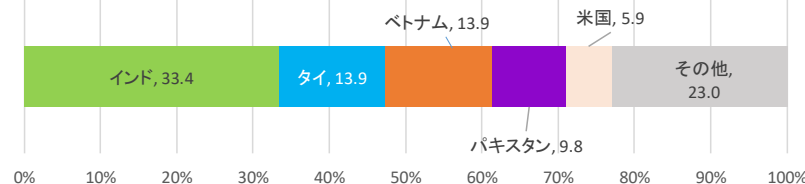
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	515.8	520.0	527.6	0.02	1.5
消 費 量	520.1	522.6	526.4	0.04	0.7
輸 出 量	54.6	53.8	53.9	0.1	0.2
輸 入 量	56.6	51.4	50.6	0.7	▲ 1.6
期末在庫量	179.4	176.8	178.0	1.9	0.7
期末在庫率	34.5%	33.8%	33.8%	0.4	▲ 0.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 June, 2024）

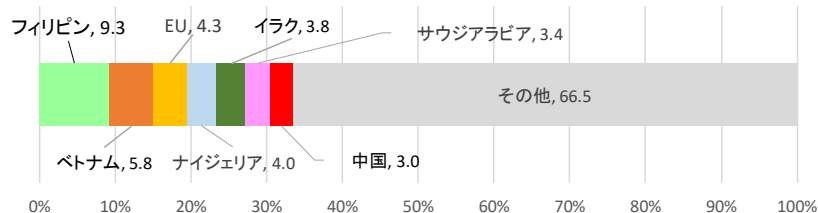
○ 2024/25年度 世界のコメの生産量(527.6百万トン)（単位：％）



○ 2024/25年度 世界のコメの輸出量(53.9百万トン)（単位：％）



○ 2024/25年度 世界のコメの輸入量(50.6百万トン)（単位：％）



（２）国別のコメの需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は増加の見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 0.9%増の 7.0 百万トンの見込み。2023 年末から 2024 年初頭にかけての主として中南米からの需要増加を受けた国内価格の上昇や、国際価格の高騰継続見込みにより、収益向上が見込まれることから、作付意向調査（2024.3.28）で長粒種の作付面積増大が短粒種の作付面積減少を上回り、収穫面積が増大（前年度比 0.9%増）することが要因。

同「Crop Progress」（2024.6.10）によれば、アーカンソー州等主要生産 6 州の 6 月 9 日時点の発芽率は 93%と、前年同期（92%）、過去 5 年平均（91%）より進捗している。作柄評価は「やや良～良」が 82%と、前年同期（67%）を上回っている。これは、生育に適した 5 月の降雨や平年より高い気温が影響している可能性がある。なお、中・短粒種の主要生産州のカリフォルニア州では、発芽率が 65%と、前年同期（61%）より進捗しているものの、過去 5 年平均（79%）より低い。これは、4 月末の作付期初期における豪雨の影響で、作付け進捗率が過去 5 年平均より低かったことが影響している可能性がある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給量増加の見込みから、前年度比 1.8%増の 5.1 百万トンと史上最高の見込み。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、アジア諸国からの香米の継続的な輸入増加を受け、前年度より 0.03 百万トン増加し、前年度比 2.2%増の 1.4 百万トンと史上最高の見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加とそれに伴う価格下落予想から、前年度比 6.4%増の 3.2 百万トンの見込み。2023/24 年度(2023 年 8 月 1 日～2024 年 5 月 30 日)の主な輸出先国はメキシコ（84.1 万トン）、ハイチ（34.6 万トン）、日本（30.0 万トン）の順。

USDA「Rice Outlook」（2024.6.14）によれば、6 月 7 日までの週のイラク向け長粒種（2 等、碎米 4 %混入）の価格は 800 ドル／トンと、中南米諸国からの需要増大を受け、本年 4 月から 2008 年 8 月以来の水準（805 ドル／トン）に高止まりしている（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。地中海向けカリフォルニア米（1 等、碎米 4 %混入）である中粒種の 6 月 7 日までの週の価格は、生産量の増加見込みを受け 835 ドル／トンと、2023 年 9 月初旬の史上最高値（1,650 ドル／トン）から 815 ドル／トン下落し、本年 2 月以降、2021 年 5 月（983 ドル／トン）以来の安値となっている。

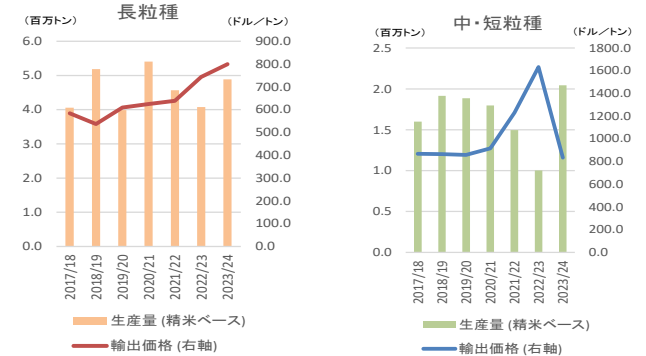
コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 8 月～25年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.1	6.9	7.0	-	0.9
消 費 量	4.6	5.0	5.1	-	1.8
輸 出 量	2.0	3.0	3.2	-	5.3
輸 入 量	1.3	1.4	1.4	-	2.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.4	▲ 0.0	11.0
期末在庫率	14.4%	15.9%	17.1%	▲ 0.5	1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.17	-	0.9
単収(もみt/ha)	8.28	8.57	8.56	-	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 June, 2024）

図：米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」（2024.6.14）より。価格は年度内の平均価格。なお、2024/25 年度は 2024 年 6 月の価格。

< インド > カリフ米の作付けを開始

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、138.0百万トンと、前年度比で0.7%増加、過去5年平均比で6.9%増加し、史上最高の見込み。前年度と異なり、雨期が例年通り6月から始まり、作付けも例年通り開始されることで、収穫面積が前年度比1.9%増加（48.50百万ヘクタール）することが要因。

農産物市場情報システム（2024.6）によると、5月28日現在、ラビ米の収穫が終盤を迎えている。

USDA「Weekly Weather」（2024.5-6）によると、5月下旬よりインド南西部から東部にかけて降雨があり、南部ではカリフ米の作付けが開始された。インド気象局によると、雨期は例年通り6月1日から始まり、6月上旬にはインドのほぼ全土で降雨があった。この降雨で北東部もコメの作付けに良好な状況となった。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、インフレ懸念を受けて政府が備蓄米を市場に放出すると予想されていることもあり、前年度比2.1%増の120.0百万トンの見込み。なお、政府は市場からコメ等を調達した上で、低所得世帯（8.14億人以上）を対象とし、無償又は低価格で配給している。2023/24年度の調達量は52.5百万トンと、インド全体の消費量の半分に相当し、市場のコメ流通量が限られることから、政府による配給向けの調達が国内価格高止まりの一因とみられる。

2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給量（生産量と前年度の期末在庫の合計）の増加を受け、前年度比12.5%増の18.0百万トンの見込み。依然として世界第1位の輸出シェアを維持しており、世界全体のコメ輸出総量の約33%を占める。2023年10月から2024年3月までの主な輸出先国は、サウジアラビア（76.3万トン）、イラク（49.2万トン）、ギニア（44.7万トン）、ベナン（37.6万トン）の順。サウジアラビア等中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主となっている。

なお、インドは、2022年9月9日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化している。本年2月21日には、インド財務省が、本年3月31日までの予定だったパーボイルド米の20%の輸出関税を無期限に延長した。詳細は右表を参照のこと。なお、総選挙の結果、現政権が続投することとなり、インフレ抑制（目標は2 - 6%）等のため、輸出規制等の政策は継続の見込み（概要編参照）。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.6.12）によれば、インド産米（碎米5%混入）の価格は、輸出規制強化後のデータが提示されていない。なお、規制前の2022年7月時点の輸出価格は485ドル/トンと、アジア主要輸出国で最低水準の価格だった（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	135.8	137.0	138.0 (133.0)	-	0.7
消 費 量	114.5	117.5	120.0 (114.0)	-	2.1
輸 出 量	20.3	16.0	18.0 (16.3)	-	12.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	38.5	38.5 (37.9)	2.0	-
期末在庫率	26.0%	28.8%	27.9% (29.1%)	1.5	▲ 0.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	47.83	47.60	48.50 (47.83)	-	1.9
単収(もみt/ha)	4.26	4.32	4.27 (2.84)	-	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June, 2024)、
IGC「Grain Market Report」(23 May, 2024)（単収は精米t/ha）

表：インドのコメ輸出規制(2022年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t) 最低輸出価格導入 (1,200ドル/トン→950ドル/トンに引き下げ (2023.10.26～))	(法定税率) 2023.8.27～
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%)	2023.8.25～
バスマティ米・パーボイルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20～ 2024.12.31
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止	2022.9.9～

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可。
※有機米は本措置の対象外。
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成。

< 中国 > 低温や多雨が東北部の一期作稲や東部・南部の早稲の生育等に影響

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）が見込まれることから、前年度比 1.0%増の 146.0 百万トンの見込み。小麦やとうもろこしに比べて収益が見込まれることや、政府の最低支持価格の上昇、二期作の推進が収穫面積の増大要因とみられる。

中国中央气象台（2024.6）によると、①東北地域の5月上旬から中旬までの気象条件は概ね良好で、降雨により適度な土壌水分となったことから、一期作稲の作付けが開始された。5月下旬は低温が続き、曇りや雨で日照が少ない日もあったことから、稲の生長に遅れがみられた。②長江中下流域及び南部では、5月は平年より気温が高く、多雨となった。5月末の時点で、長江中下流域の早稲は分けつ期から穂ばらみ期にある。南部の大部分の地域では早稲が穂ばらみ期にあり、一部は出穂期に入っている。しかし、南部では多雨により、穂の形成や成熟が不十分な早稲が見られ、害虫被害も発生している模様。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、2023年9月以降のとうもろこし価格低下による飼料用とうもろこし需要増大に伴い、飼料用米の代替需要が減少しているほか、高齢化の進展や若年層の食生活の西洋化等に伴う食用需要の減少から、前年度比 2.2%減の 145.0 百万トンの見込み。

2024/25年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、特に飼料用の国内消費量減少や生産量の微増から、前年度比 6.3%減の 1.5 百万トンの見込み。中国はこれまで、もち米や香米に加え、特にとうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、代替としてインド等から碎米を輸入してきたが、2022年9月以降、インドの輸出禁止等により輸入量は規制前の年度（2021/22年度、6.0 百万トン）と比較して 73.3%減少している（2023/24年度）。なお、中国海関統計によれば、2024年1～4月の輸入量は 47.6 万トン（前年同期比 64.7%減）となった。輸入国別では、1位がタイ（29.8%）、2位はミャンマー（28.3%）、3位がベトナム（27.1%）の順。

2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこしの国際価格の低下を受け、古米等への飼料用代替需要が減少することから、前年度比 6.3%減の 1.5 百万トンの見込み。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

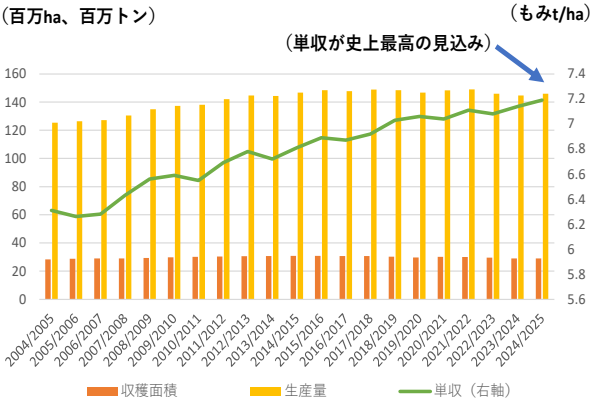
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.0	144.6	146.0 (145.0)	-	1.0
消 費 量	155.0	148.2	145.0 (145.7)	-	▲ 2.2
輸 出 量	1.7	1.6	1.5 (1.7)	-	▲ 6.3
輸 入 量	4.4	1.6	1.5 (2.6)	-	▲ 6.3
期末在庫量	106.6	103.0	104.0 (101.7)	-	1.0
期末在庫率	68.0%	68.7%	71.0% (69.0%)	-	2.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00 (29.45)	-	0.2
単収(もみt/ha)	7.08	7.14	7.19 (4.96)	-	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June, 2024)
IGC「Grain Market Report」(23 May, 2024)（単収は精米t/ha）

図： 中国の生産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05～2024/25年度)



資料：USDA「PS&D」(2024.6.12)をもとに農林水産省にて作成

< タイ > 5月中旬から雨期入り。雨期米の生育等に良好な降雨

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、雨期の開始が遅れ降雨量が少なかった2023年に比べ、2024年は平年通りの雨期（例年5月～10月）となり、収穫面積の回復（前年度比0.5%増）が見込まれることから、前年度比0.5%増の20.1百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather」（2024.5-6）及び現地情報によると、タイは5月中旬頃から雨期に入った。継続的な降雨で3月初旬から続いていた高温が緩和され、土壌水分が改善した。主要生産地である北部、東北部及び中部では5月の降雨量が平年を上回った。5月の降雨はコメの作付生育に好条件となり、雨量が例年を上回る地域もあったが、6月に入り、降雨量が平年より少なくなり、雨が降らない地域も見られた。

アセアン食料安全保障情報システム(2024.6)及び現地情報によると、雨期米は、作付期から分げつ期にある。2024年上半期は平年より降雨が少なかったことから、農家は作付面積を減らしたり、キャッサバや、高価格で精糖工場から補助金を受給できるサトウキビの作物に転作する等により、干ばつリスクの軽減を図っている。タイ気象局によると、6月は降雨量の増加が見込まれるため、単収は前年度より増加する見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシアからの需要が減少する見込み等から、前年度比11.8%減の7.5百万トンの見込み。

2023/24年度の輸出量は、4月のフィリピン等への輸出量が予想を上回り、前月予測から0.1百万トン上方修正されたものの、降雨不足等による減産見込みから、前年度比2.3%減の8.5百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024年1～4月の輸出量は、前年同期比29.1%増の339.8万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の30.0万トンから2.6倍増加し77.2万トンと、最大の輸出先国となった。また、検疫問題で7年間輸入を停止していたタイ産米の輸入を2022年に再開したイラクは31.1万トン（前年同期46.8万トン）、米国は28.1万トン（同22.8万トン）、エルニーニョ現象による降雨不足で減産が見込まれるフィリピンは22.2万トン（同4.0万トン）をそれぞれタイから輸入した。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.6.12）及び「Rice Outlook」（2024.6.14）によれば、6月7日までの週のタイ産米（長粒、2等精米）の輸出価格は、東南アジア諸国からの需要継続見込みから、前月より23ドル／トン上昇し、613ドル／トンとなった（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位: 百万精米トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.9	20.0	20.1	(20.1)	-	0.5
消 費 量	12.6	12.6	12.6	(12.7)	-	-
輸 出 量	8.7	8.5	7.5	(8.3)	-	▲ 11.8
輸 入 量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	-	-
期末在庫量	3.8	2.8	2.9	(2.9)	▲ 0.1	3.6
期末在庫率	17.6%	13.0%	14.2%	(13.6%)	▲ 0.5	1.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70	(11.07)	-	0.5
単収(もみt/ha)	2.86	2.85	2.85	(1.89)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 June, 2024)
IGC 「Grain Market Report」 (23 May, 2024) (単収は精米t/ha)

表：タイの国別輸出量

(単位: 万トン)			
国名	2023年 1-4月	2024年 1-4月	対前年増減量
1 インドネシア	30.0	77.2	47.3
2 イラク	46.8	31.1	-15.7
3 米国	22.8	28.1	5.3
4 フィリピン	4.0	22.2	18.2
5 南アフリカ	23.9	20.2	-3.7
6 モザンビーク	6.6	14.4	7.7
7 コートジボワール	1.8	12.7	10.9
8 中国	13.0	11.4	-1.6
9 マレーシア	2.8	11.4	8.6
10 セネガル	12.1	10.9	-1.2
計	263.3	339.8	76.6 (前年比29.1%増)

資料：タイ関税局（2024.6）

< ベトナム > 北部は冬春作（乾期米）を収穫、南部は夏秋作（雨期米）を作付け

【生育・生産動向】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の微増が単収減少の影響を相殺することから、前年度並みの27.0百万トンの見込み。なお、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等から、収穫面積が史上最高の2014/15年度（782.3万ヘクタール）を境に緩やかな低下傾向にある。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.6）によると、①北部は、冬春作（乾期米）が収穫期にある。収穫面積は0.37百万ヘクタール。単収は、6.34もみトン／ヘクタールと、良好な天候と豊富な灌漑用水から、前年度より0.6%増加の見込み。また、夏秋作（雨期米）の作付けが始まった。②南部では、夏秋作（雨期米）が作付期から分けつ期にある。現時点の播種面積は1.1百万ヘクタール。夏秋作の作付けは、主に高温と降雨の遅れによる水不足で、前年度より進捗が遅れている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量は昨年度並みも、飼料用需要等の増加により国内消費量が増加する見込みから、前年度比9.6%減の7.5百万トンの見込み。

USDA及び現地情報によれば、2023/24年度の輸出量は、フィリピン等アジア諸国への輸出量が予想を上回ったため、前月予測から0.3百万トン上方修正され、前年度比1.2%増の8.3百万トンと史上最高の見込み。なお、インドネシアでは、2023年10－12月にかけて、エルニーニョ現象による降雨不足等の影響によるコメの減産見込み等から、輸入量が増加した。2023年（1－12月）は合計306.3万トンを輸入し、うちベトナム産の輸入は114.8万トン（37.5%）。なお、2024年1－4月のコメの収穫量も前年度比で減少する見込みから、インドネシア政府は合計360万トンの輸入枠を決定した。

ベトナム関税総局によれば、2024年1～5月の輸出量は402.6万トンと、前年同期（361.9万トン）に比べ11.2%増加した。主な輸出先国は、フィリピン（183.3万トン、前年同期比19.6%増）、インドネシア（67.7万トン、同83.4%増）、マレーシア（33.8万トン、同82.5%増）、中国（20.3万トン、同67.8%減）の順。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.6.12）及び「Rice Outlook」（2024.6.14）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の6月7日までの週の価格は、東南アジア諸国からの需要継続の見込みから、前月の価格より10ドル／トン上昇し、595ドル／トンとなった。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	26.9	27.0	27.0 (28.6)	-	-	-
消 費 量	21.9	22.0	22.1 (22.0)	-	-	0.5
輸 出 量	8.2	8.3	7.5 (8.0)	-	-	▲ 9.6
輸 入 量	2.8	2.8	3.0 (1.6)	-	-	7.3
期末在庫量	2.4	1.9	2.2 (2.9)	▲ 0.3	-	18.7
期末在庫率	8.0%	6.2%	7.5% (9.5%)	▲ 1.0	-	1.3
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.10	7.15	7.15 (7.11)	-	-	-
単収(もみt/ha)	6.07	6.05	6.04 (3.90)	-	-	▲ 0.2
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 June, 2024) IGC「Grain Market Report」(23 May, 2024) (単収は精米t/ha)						

図：長粒種のFOB価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」（2024.6.14）より。

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>2024/25 年度

生産量

前年度比

↑

前月比

—

・

ブラジル、米国、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

消費量

前年度比

↑

前月比

↓

・

パラグアイ等で下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出力

前年度比

↑

前月比

—

・

米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

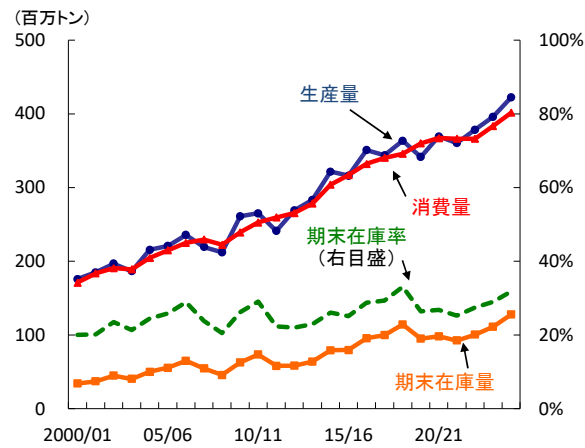
期末在庫量

前年度比

↑

前月比

↓



資料：USDA「PS&D」(2024. 6. 12)をもとに農林水産省で作成

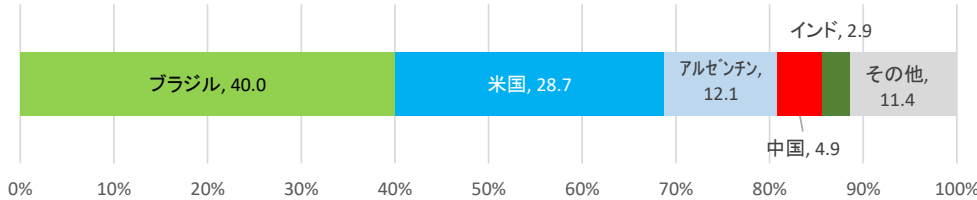
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

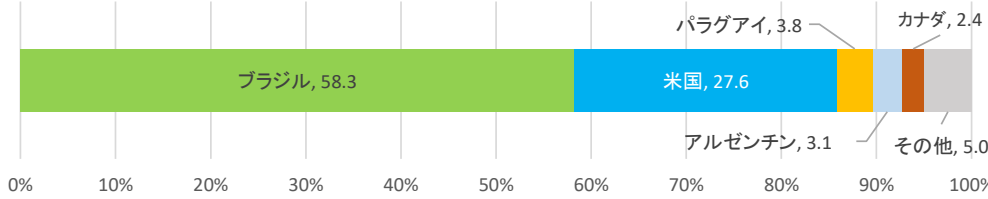
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.4	395.9	422.3	—	6.7
消費量	366.2	383.3	401.6	▲ 0.1	4.8
うち搾油用	315.4	329.8	345.8	▲ 0.1	4.9
輸出力	172.1	172.6	180.2	—	4.4
輸入量	167.9	170.5	176.4	—	3.4
期末在庫量	100.6	111.1	127.9	▲ 0.6	15.2
期末在庫率	27.5%	29.0%	31.8%	▲ 0.1	2.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 June 2024)

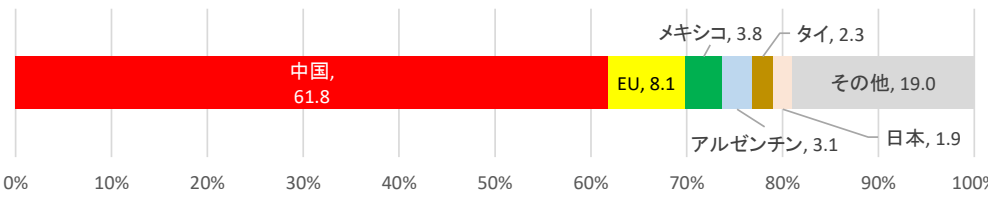
○ 2024/25 年度の世界の大豆の生産量(422.3 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸出力(180.2 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸入量(176.4 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より 6.9%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 6.9%増の 121.1 百万トンの見込み。作付け時の価格が前年度に史上最高の豊作となったとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA 「Crop Progress」(2024.6.10) によれば、作付進捗率は 87%と、前年度同期 (95%) を下回ったものの、過去 5 年平均 (84%) を上回っている。出芽率は 70%と、前年度同期 (83%) を下回ったものの、過去 5 年平均 (66%) は上回っている。5 月に中西部で降雨があり、作物の出芽に十分な水分量となっているとみられる。作柄評価が「良～やや良」の比率は 72%と、乾燥の影響を受けた前年度同期 (59%) を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、バイオ燃料等需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 5.5%増の 69.0 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.3%増の 49.7 百万トンの見込み。

USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.6.12) によれば、本年 6 月の米国の大豆価格は、6 月 7 日現在、作付進捗を受けて前月から 22 ドル/トン下落し、479 ドル/トンとなったものの、ブラジル産 (464 ドル/トン) を上回っている。なお、USDA によれば、2023 年 9 月～2024 年 5 月の輸出量は 4,441 万トンと、ブラジルとの激しい輸出競争を受けて前年度同期の 4,460 万トンより 0.4%減。内訳は中国 (2,359 万トン)、メキシコ (542 万トン)、日本 (304 万トン) の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前年度のアルゼンチンの減産による代替需要を受けて米国産大豆粕の輸出が増大した結果、国内の大豆粕価格が高騰したこと等により、前年度の国内搾油用消費が当初予想ほど伸びないとの見通しを受け、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、前年度より 29.9%増の 12.4 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 10.4%で、過去 5 年平均 (8.0%) を上回り 10%台まで回復したものの、引き続き低水準に留まる見込み。

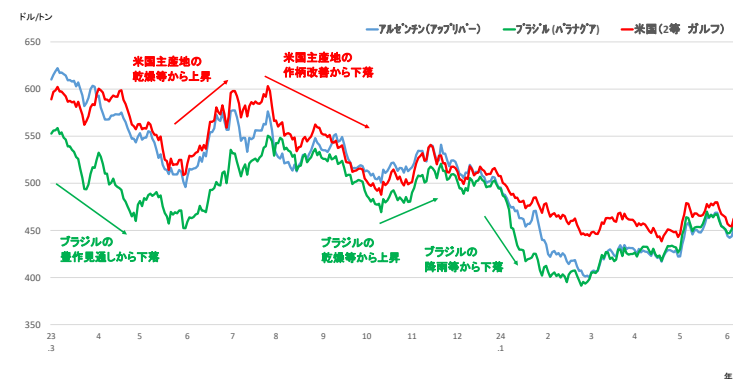
大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24 年 9 月～25 年 8 月)		
			予 測 値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	116.2	113.3	121.1	-	6.9
消 費 量	63.0	65.4	69.0	-	5.5
うち搾油用	60.2	62.3	66.0	-	5.9
輸 出 量	54.2	46.3	49.7	-	7.3
輸 入 量	0.7	0.7	0.4	-	▲ 39.7
期末在庫量	7.2	9.5	12.4	0.3	29.9
期末在庫率	6.1%	8.5%	10.4%	0.2	1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.33	34.64	-	3.9
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.50	-	2.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成。

< ブラジル > 2024/25 年度の生産量は前年度より増加する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 10 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。この際、エルニーニョ現象が収束し、ラニーニャ現象に移行する見込みもあり、収穫面積は増加する可能性もある。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.6.13）によれば、2023/24 年度の実産量は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることで収穫面積が増加するものの、生育初期の高温乾燥による単収減から前年度より 4.7%減の 147.4 百万トンの見通し。

5 月上旬、南部のリオ・グランデ・ド・スール州において、多雨により洪水が発生した。リオ・グランデ・ド・スール州政府の機関 EMATER/RS の報告（2024.6.4）によれば、同州での大豆の実産損失は 2.7 百万トンの見込み。ただし、第 1 回目の見積もりであり、洪水の実産に対する影響は、来月以降、より正確に示されるとみられる。

USDA によれば、6 月上旬、リオ・グランデ・ド・スール州を含めて高温乾燥が広がった。CONAB によれば、6 月中旬に収穫は完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、引き続き堅調な搾油用需要から前年度より 0.4%増の 58.1 百万トンとほぼ横ばいの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産による供給増を受けて価格競争力も高まる見込みから、前年度より 2.9%増の 105.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～5 月の輸出量は 50.2 百万トンで、前年度同期（49.0 百万トン）に比べ 2.4%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国（35.8 百万トン）、スペイン（2.2 百万トン）、トルコ（1.6 百万トン）の順。大豆は輸出最盛期に入っている。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロッソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

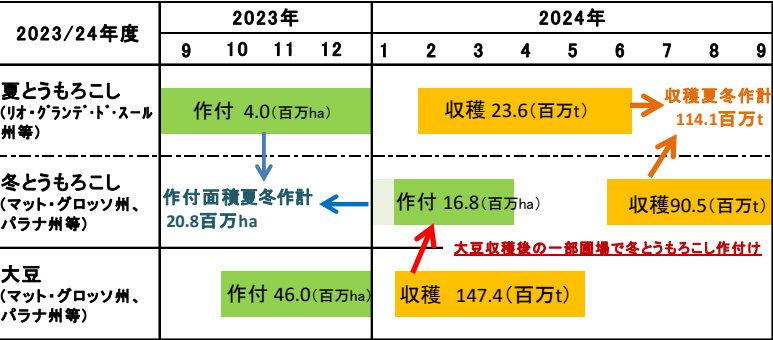
大豆－ブラジル

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（24年10月～25年9月）			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	162.0	153.0	169.0 (161.5)	-	10.5	
消 費 量	57.2	57.9	58.1 (57.3)	-	0.4	
うち搾油用	53.4	54.0	54.0 (54.3)	-	-	
輸 出 量	95.5	102.0	105.0 (102.9)	-	2.9	
輸 入 量	0.2	0.6	0.2 (0.5)	-	▲ 75.0	
期末在庫量	36.8	30.6	36.6 (3.1)	▲ 0.9	19.8	
期末在庫率	24.1%	19.1%	22.5% (1.9%)	▲ 0.5	3.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.60	45.90	47.30 (41.49)	-	3.1	
単収(t/ha)	3.63	3.36	3.57 (3.89)	-	6.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC「Grain Market Report」(23 May 2024)

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2023/24年度の実産の作付けは、2023年9月以降、順次開始。
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。



資料：CONAB穀物レポート（2024. 6. 13）

＜ アルゼンチン ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より増加する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせる見通しから、前年度から 2.0%増の 51.0 百万トンの見込み。

5 月上旬時点で前年同期より収穫が遅れていたものの、6 月上旬、温暖で乾燥した気候により、収穫が進展した。

アルゼンチン政府によれば、6 月 6 日現在、大豆の収穫進捗率は前年同期並みの 94%。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 11.3%増の 47.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 15.4%減の 5.5 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国向け輸出が増加する見通しから、前年度より 19.6%増の 5.5 百万トンの見込み。

なお、2024 年 1 ～ 4 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 23.1 万トンで前年度（4.6 万トン）の約 5 倍。輸出先は、中国（16.5 万トン）、チリ（2.3 万トン）の順で、4 月に入り、中国向け輸出が急増している。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%と設定。2022 年 3 月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2 %引き上げたが、2023 年 1 月からは 31%に戻している。

2023 年 12 月 10 日、右派のミレイ政権が誕生した。同 12 日、経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。また、大豆の輸出税は引き続き最大 33%に設定すると発表した。

大豆ーアルゼンチン

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	(単位：百万トン)			
			2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	25.0	50.0	51.0 (51.0)	-	2.0	
消 費 量	36.6	42.8	47.6 (48.5)	-	11.3	
うち搾油用	30.3	35.5	40.0 (42.0)	-	12.7	
輸 出 量	4.2	4.6	5.5 (4.9)	-	19.6	
輸 入 量	9.1	6.5	5.5 (5.4)	-	▲ 15.4	
期末在庫量	17.0	26.2	29.6 (12.9)	-	13.0	
期末在庫率	41.7%	55.2%	55.6% (24.1%)	-	0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	14.40	16.50	16.90 (15.87)	-	2.4	
単収(t/ha)	1.74	3.03	3.02 (3.21)	-	▲ 0.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC 「Grain Market Report」(23 May 2024)

写真：北部サンタフェ州の大豆の圃場風景
(2024 年 5 月 30 日撮影)



本圃場の大豆は、既に収穫が完了。アルゼンチンでは、収穫期に穀物の貯蔵施設の需要を満たすためにサイロバッグが頻繁に使用されている（写真は農業組合のサイロバッグ）。

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度より減少する見通し

【生産・生育状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積が増加（対前年度比 0.3%増）するものの、単収が平年並みに戻り減少（対前年度比 1.0%減）すると見込まれることから、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目の見込み。

なお、6 月上旬、主産地の黒竜江省等では出芽期を迎えている。USDA によれば、6 月上旬、東北部では、降雨を受けて生育初期の水分状況が良好となり、大豆の生育に好影響を与えている。

2 月 3 日に発表された中国共産党・国務院（内閣に相当）の中央一号文件には、引き続き大豆の作付け確保や単収の向上等の取組等について記載された。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物需要増を受けて大豆粕需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.8 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、大豆粕需要増を受けて、前年度より 3.8%増の 109.0 百万トンと史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～4 月の輸入量は、前年同期より 2.9%減の 2,714.8 万トン。内訳は、ブラジル（1,590.1 万トン）、米国（958.3 万トン）、カナダ（97.6 万トン）の順となっており、前年同期の米国（1,598.5 万トン）、ブラジル（920.8 万トン）の順が逆転している。なお、ブラジルと米国を合わせたシェアが 9 割以上を占めている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 4 月号」によると、4 月の国内価格は、5,360 元/トンと前月並み。中国政府系企業による継続的な買付けで価格は安定している。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、輸入増を受けて、前年度より 7.7%増の 39.2 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度より 1.0 ポイント増の 30.9%となる見込み。

大豆－中国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.3	20.8	20.7 (20.5)	-	▲ 0.7
消 費 量	117.5	121.7	126.8 (125.3)	-	4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (103.4)	-	4.0
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
輸 入 量	104.5	105.0	109.0 (103.0)	-	3.8
期末在庫量	32.3	36.4	39.2 (39.6)	-	7.7
期末在庫率	27.5%	29.9%	30.9% (31.6%)	-	1.0

(参考)
収穫面積(百万ha) 10.24 10.47 10.50 (8.40)
単収(t/ha) 1.98 1.99 1.97 (1.95)
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 June 2024)
IGC「Grain Market Report」(23 May 2024)

表 中国の大豆輸入量と輸入元国

2024年 1～4 月			2023年 1 月～2023年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	1590.1	53.8	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	958.3	38.4	米国	2,374.3	24.0
カナダ	97.6	4.9	アルゼンチン	199.2	2.0
ロシア	27.0	1.2	カナダ	146.6	1.5
アルゼンチン	21.3	1.1	ロシア	129.3	1.3
ベナン	11.1	0.2	南アフリカ	14.7	0.1
その他	9.4	0.4	その他	38.6	0.4
計	2,714.8	100	計	9,895.7	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は 6.9 百万トンの見込み

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」(2024.6.20) によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積が前年より減少することを受け、前年度から 1 %減の 6.9 百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕需要と輸出は堅調であり、生産量は微減に留まるとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。作付面積の減少は、前年度に作付面積を増加させたマニトバ州の農家が反動で作付面積を減らしたことが要因とみられる。

なお、カナダの大豆生産は、小麦やなたねと異なり、東部のオンタリオ州が主産地で、生産量の半分以上のシェアがある。オンタリオ州に隣接するマニトバ州及びケベック州でも生産されている。オンタリオ州では作付期の終盤にあり、概ね出芽期から一葉期を迎えている。

USDA によれば、6 月上旬にオンタリオ州及びケベック州の一部で乾燥がみられたものの、大部分で降雨があり、土壌水分量が維持され、生育状況は概ね良好。

【需要状況】AAFC によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用等の需要の減少により前年度から 1.5%減の 2.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 1.0%増の 5.0 百万トンの見込み。主要な輸入相手国である中国において、搾油用需要増に伴い、輸入量が増加することが要因の一つとみられる。

カナダ穀物委員会 (Canadian Grain Commission) によれば、2023/24 年度 (2023 年 8 月～2024 年 7 月) の 2023 年 8 月～2024 年 4 月の輸出量は 324.6 万トンで、前年度同期 (306.5 万トン) を上回っている。国別では、中国 (143.9 万トン) が 40%以上のシェアを占め、次いでアルジェリア (54.9 万トン)、イラン (54.6 万トン)、イタリア (15.0 万トン) の順となっている。

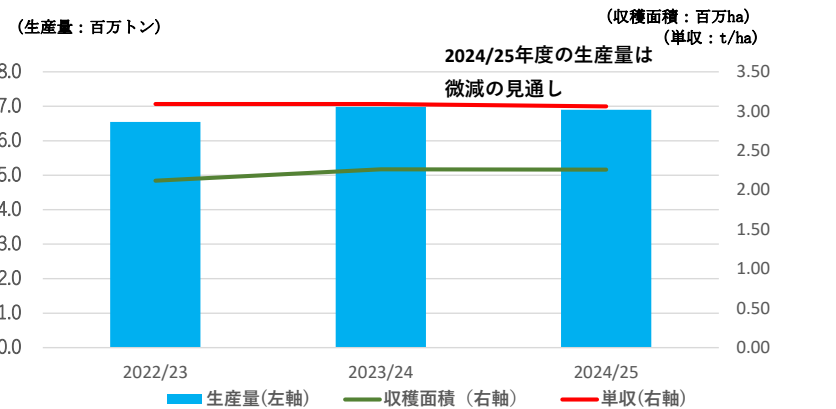
AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、減産により前年度から 10.8%減の 0.4 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.5	7.0	6.7 (6.9)	-	▲ 4.0
消 費 量	2.7	2.8	2.7 (2.4)	-	▲ 3.6
うち搾油用	1.8	1.8	1.7 (1.9)	-	▲ 5.7
輸 出 量	4.2	4.6	4.3 (5.0)	-	▲ 5.5
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.5)	-	14.3
期末在庫量	0.4	0.4	0.6 (0.4)	▲ 0.0	37.4
期末在庫率	5.3%	5.5%	7.9% (5.0%)	▲ 0.0	2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.20 (2.26)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.05 (3.06)	-	▲ 1.3

資料：USDA 「PS&D」
「World Agricultural Production」 (12 June 2024)
AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」 (20 June 2024)

図 カナダの直近 3 か年の生産量等の推移



資料：AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」 (2024.6.20) をもとに
農林水産省にて作成。

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について（2024/25年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

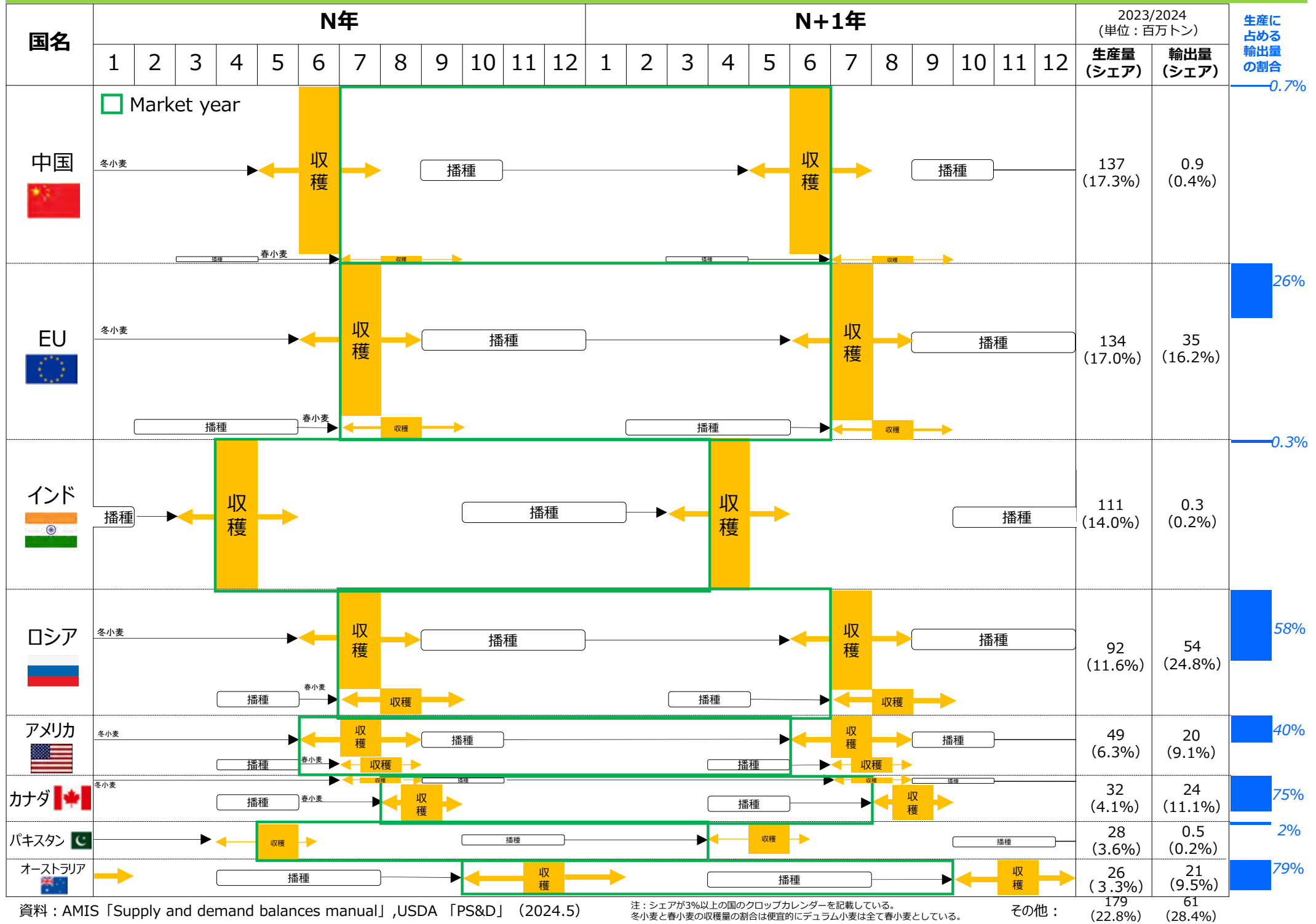
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

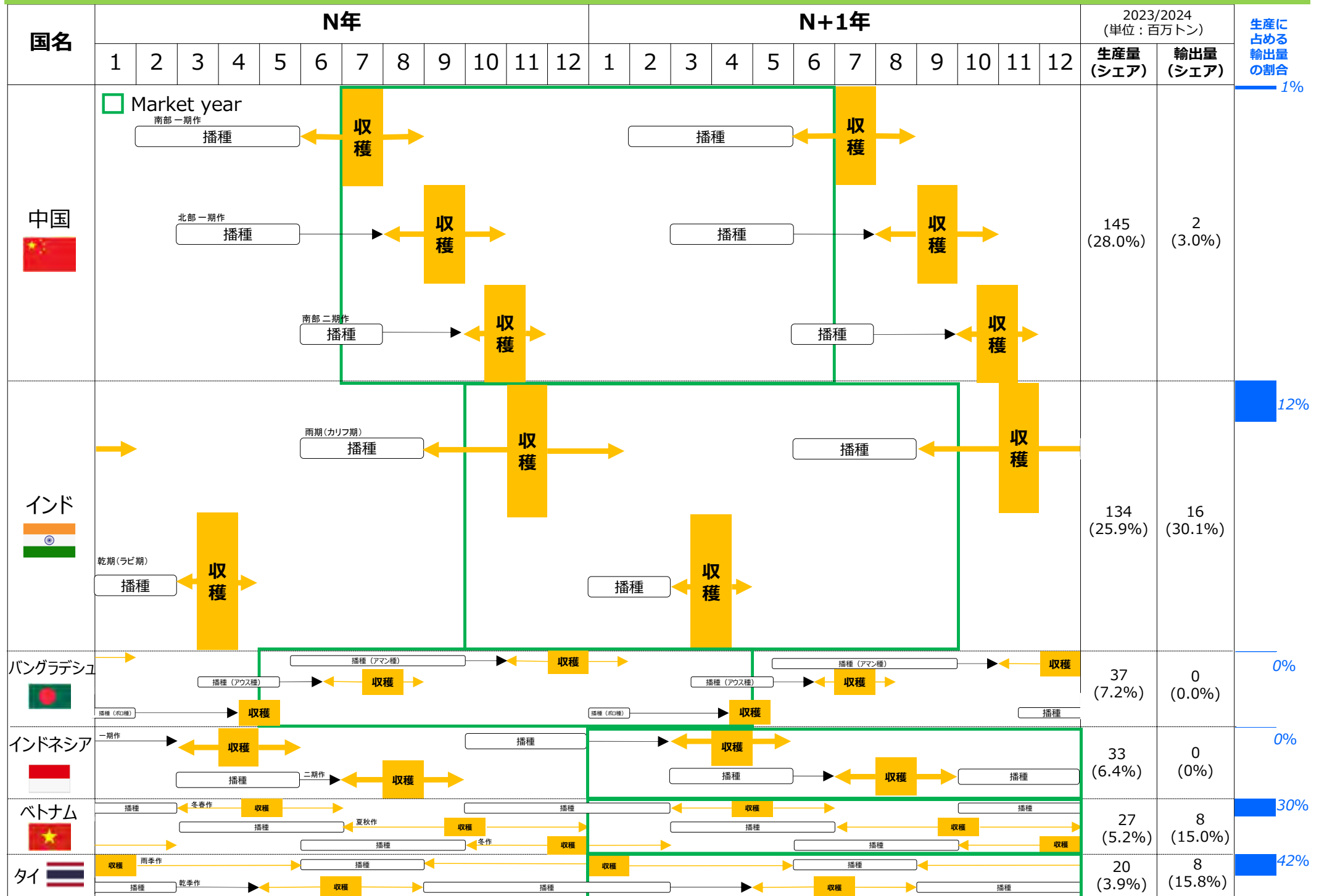
主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS「Supply and demand balances manual」, USDA「PS&D」(2024.5) 注: シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他:

122
(23.5%)

19
(36.1%)

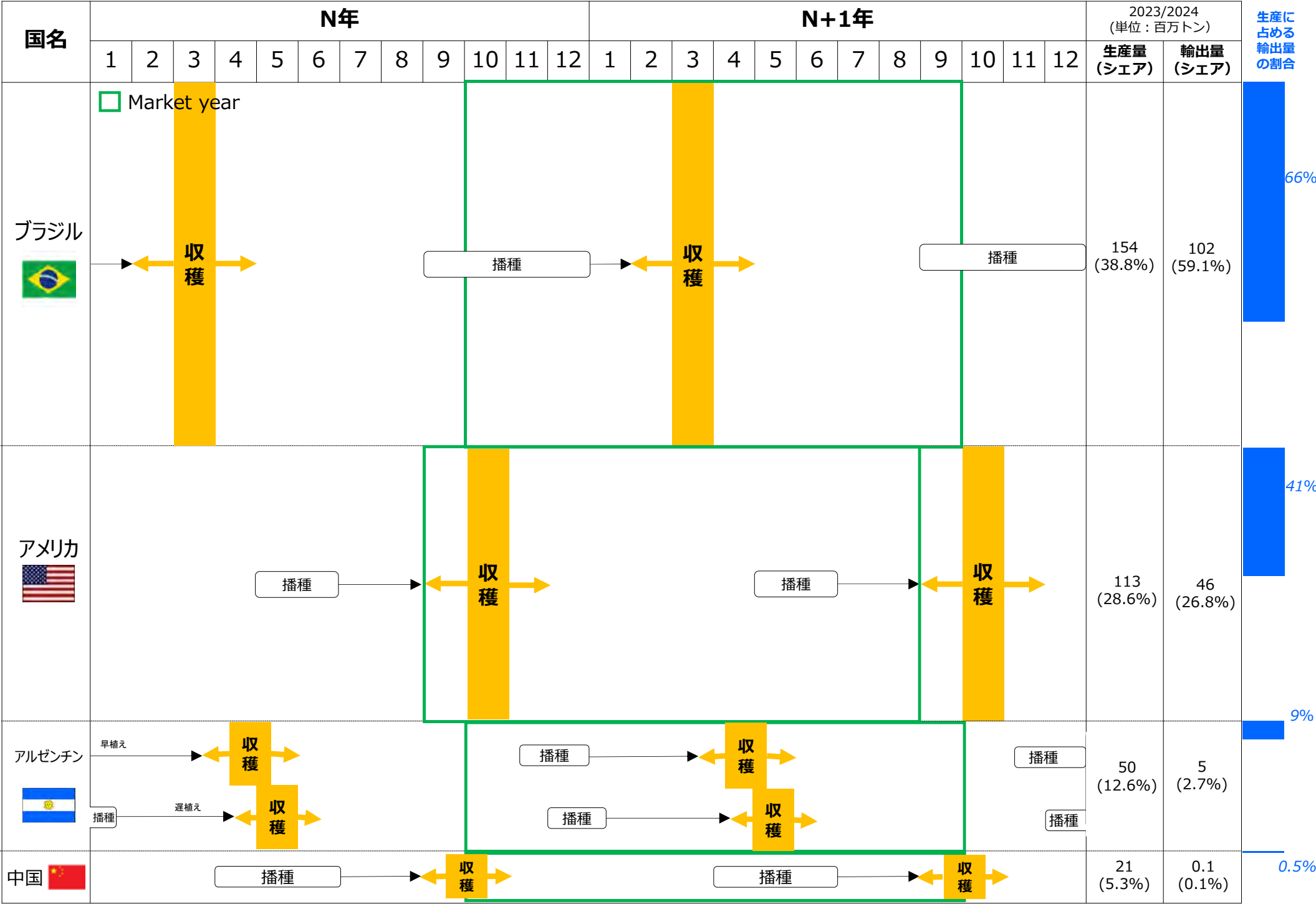
主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)	
アメリカ 	□ Market year								播種 → 収穫												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%				
中国 	播種 → 春作 → 収穫								播種 → 収穫												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%				
ブラジル 	夏とうもろこし → 播種 → 収穫								播種 → 収穫												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%				
EU 	播種 → 収穫								播種 → 収穫												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%				
アルゼンチン 	播種 → 収穫								播種 → 収穫												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%				
インド 	乾期(ラビ期) → 播種 → 収穫								雨期(カリフ期) → 播種 → 収穫												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%				

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」,USDA「PS&D」（2024.5）注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。その他：59 (14.8%) 20 (11.3%)

主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
EU 	Market year						収穫	播種										収穫	播種				20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%		
カナダ 	播種						収穫	播種										収穫	播種				19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%		
中国 	収穫						播種										収穫	播種				15 (17.4%)	0 (0%)	0%			
インド 	収穫						播種										収穫	播種				13 (14.1%)	0 (0%)	0%			
オーストラリア 	播種						収穫	播種										収穫	播種				6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%		
ウクライナ 	収穫						播種	収穫										播種	収穫				4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%		
ロシア 	播種						収穫	播種										収穫	播種				4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%		

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2024 年 6 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2024/25 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。



https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html